

I GOT
SUMMA
N
RPG
W



転生したら
ゲイ向け
RPGの世界
だった件に
ついて。6

腹減った〜…

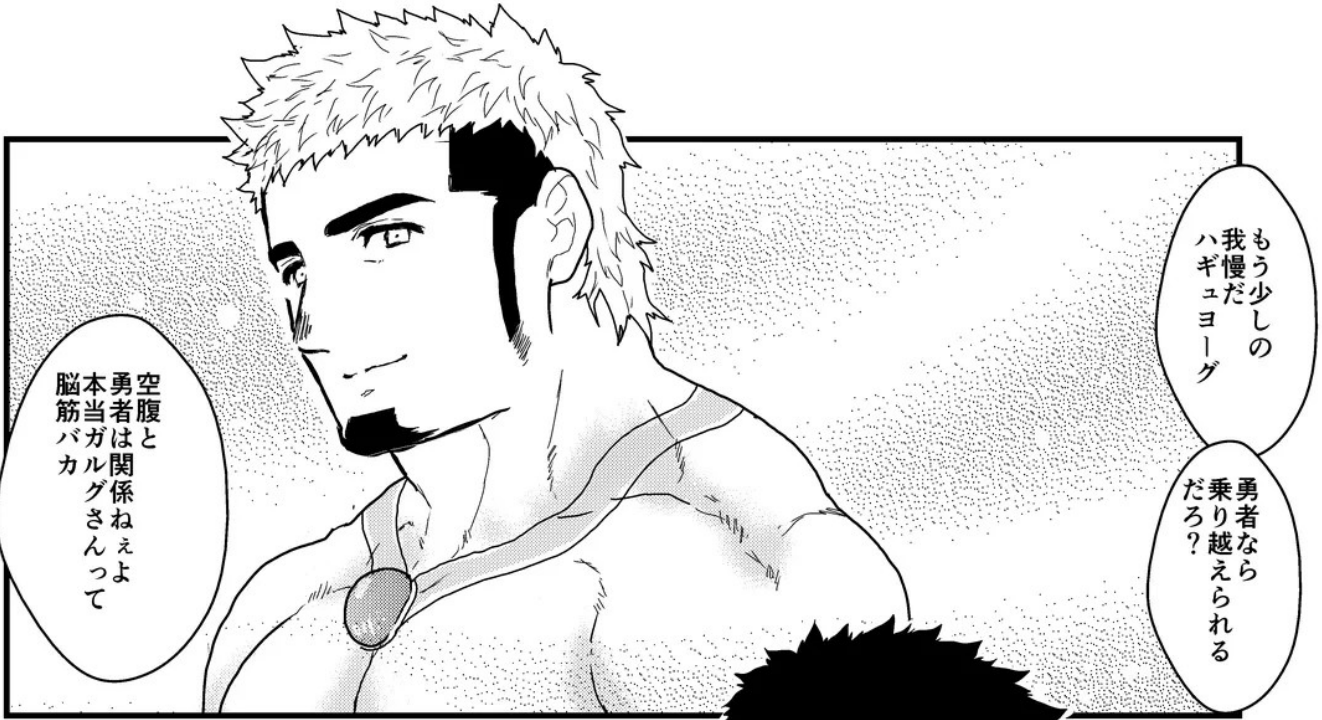
ねえ〜…
近くに食べ物屋さんとか
ないんすか〜…

俺腹減って
死にそうですよ〜…

そうですね…
まだ村らしきものは
見当たりませんし…

ええ〜…？

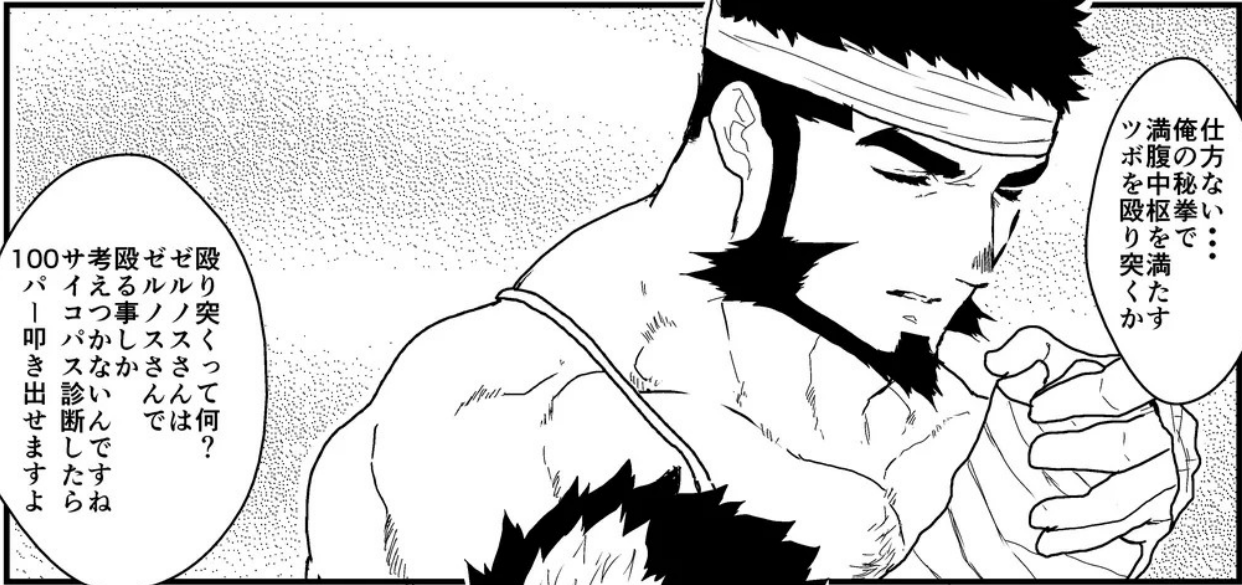




もう少しの我慢だハギョーグ

勇者なら乗り越えられるだろ？

空腹と勇者は関係ねえよ本当ガルーグさんって脳筋バカ



仕方ない…俺の秘拳で…満腹中樞を満たすツボを殴り突くか

殴り突くって何？ゼルノスさんは殴る事しか考えつかないんですねサイコパス診断したら100パー叩き出せますよ



せめて食材があればお作りするのですが…

え？料理出来るの？ミカエラさん

はい…簡単なものなのですが…ガマゴールシエンテイのスマリタグースとか…

ごめん完成品が全然見えない何その謎過ぎる食べ物



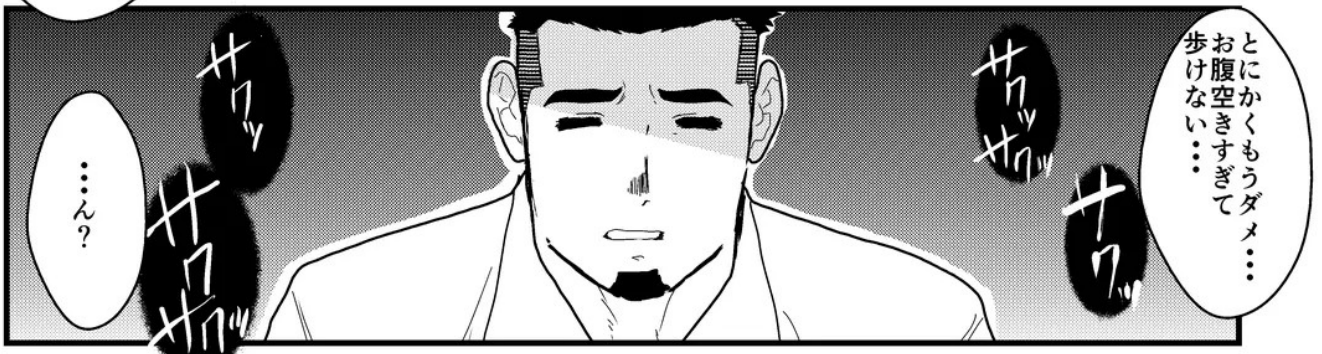
リヴァイアさんは
お腹減らないんですか？

私は
食べずとも
身を保つことが
出来る

本来の私は
水の神として
据えられた
存在なのでな…

私か？

あ、そっか
この人神だったな
すっかり忘れてた



とにかくもうダメ…
お腹空きすぎて
歩けない…

…ん？



…何だ…？
この腹が
極限まで
減っている
状態で
聞こえる
美味しそうな
咀嚼音は…！！

幻聴か…！！
それとも
悪魔の仕業…！！



…やめてくれ！！
これ以上腹の虫を
刺激するようなことは…ツ！！



頼む…お願いだッ
やめてくれ…ッ
やめろお
おお…ッ
!!!

まだ…
僕が幼かった頃…

何も知らなかった僕に…
夢と希望を与えて
くれた…

それが
ゲームだった

ゲームは教えてくれた……

君は無限の
自由を手
にしているんだ……

だから
勇気をも
って前
に進んで
いって
欲しい……

ゲームの中
で紡がれる
物語は僕
にそう
語りか
けてく
れてい
る様な
気がし
た……

あの時
の高鳴
り……

感動と笑
顔を
与えて
くれた
この
素晴
らしい
世界……

愛が
生ま
れた
日……
ゆ
ず
れ
な
い
願
い……

恋はス
リル
シヨ
ック
サス
ペ
ン
ス……
そ
し
て……

愛し
さと
切
な
さと
心
強
さと……

おーい
大丈夫
かー
変な
走馬
灯
見
え
て
っ
ぞ
ー

は
ッ
!!!





天の声!!
 テメエか!!
 さつきから
 美味しそうな
 咀嚼音出して
 てる奴は!!!

あれま
 聞こえちゃって
 ましたか



…どうしました?
 勇者様…

え!?!
 …あ…いや…!!
 何でもないっす!!



しかも
 うまい棒を
 食べる
 咀嚼音…ッ!!!
 絶対美味しいやつ
 それ…ッ!!!

僕たちが住む
 未来の世界でも
 ちゃんと人気商品で
 君臨しているのにも
 納得です

やっぱー
 何度食べても
 美味しいっすねー
 うまい棒めんたい味



ま
 そんな事は
 さておき
 いつもの
 前回までのあらすじ
 やっときますかー

この回で
 初めて読んでくださった
 読者様も
 いらっしやる
 かもしれませんし

それでは
 どうぞー

お前はそれでも
 人の子か…ッ!!!



…お腹
 減ってるんですか?

へー
 それは
 可哀そうですねー

そうだよ…ッ
 見たら分かるだろ!!
 なのにテメエは
 いげしやあしやあと…ッ!!

死んで当然よ!!
あんな男!!

うわッ
急になんだッ
誰だよ
お前!!!

……じゃあ認めらんだね?
主人公の萩洋一が
同人販売用の
ゲイ向けRPGに
転生させられたことを……

そうよ……
全てはあの男が
悪いのよ……ッ
あの変態が……ッ

あの男が……
歩きスマホを
してたから……

だから……
赤信号にも気づかず
横断歩道に自ら飛び出て
トラックにはねられて……ッ
いい気味だと思つたわ……
あれで全てが終わると
思つてた……ッ

俺この女
知らないんだけど……
抱いて俺に怨恨
いいてんだよ……
流石にひどいだろ

何だこの
サスペンス
再現VTR
みたいなのリ……
さらっと
変態言うな

だが……
それだけでは
済まなかったんだね……?

ええそうよ!
死んだと思つたのに
あの男が
再び目を覚ますと
あたりは真つ暗闇……ッ

そこで
聞こえた
天の声の導きで……ッ

あの変態にしか
聞こえない
天の声の導きで
転生すること
になったのよ!!!

おいおい
変態強調
しすぎだろ
この女

そればかりか
あの男は
同人販売用の
ゲイ向けRPGに
転生させられたのを
いいことに
ゲームのキャラを使って
ばいやり……ッ

もう我慢の限界
だった……ッ
その時あたしは
誓つたわ

必ず
この手で
裁いて
やるって!!!

挙句の果てには
その世界では
勇者の証とされて
ネクタイピンをつけていた
せいであの変態が
勇者として称えられている……ッ

何年……
何十年かかっても
あの男を……ッ
全てを壊して
いったあの変態を……ッ

だから
俺がお前に
何したつーの

…唯一の貴方の
誤算は
あの男を転生へと
導いた天の声が
未来人であったと
いうこと…

そして…
その天才的な
未来人が
魂をサルベージ
出来るという
画期的なゲームを製作し、
実験台として
自らあの男を転生
させたということ…

この二つの
真実が動かぬ
証拠になって
しまった…
そうだね？

ええ…
まさかあの男を導いた
天の声に
足元をすくわれる
なんてね…

…え？
まだあんの
この寸劇
嘘でしょ

でも
あたしは
後悔してないわ！

だって
あのゲームは
一度魂を
サルベージすると
途中では抜き取れない…

今いる
ゲームの世界を
クリア出来ない
次の転生先に
いけないんだもの!!!

そう言って
高らかに
笑う彼女…

だが
その瞳には…

一筋の涙が…

この殺人劇の
本当の被害者は…

犯人である
彼女そのもの
だったのかもしれない…

はいはいはいはい
終わりはいい
2ページも使って
何やってんだ
この茶番劇はよ

……あのさ
そろそろやめようぜ
この分りにくい
前回までのあらずじ……

何言ってるんですか？
私は貴方の代わりに
重い腰を上げて
わざわざ
やってあげてるんですよ……

感謝しろ
感謝

よく言えたな
元はと言えば
お前がこの世界に
俺を転生

あーうっせえ
うっせえ
ほんとうっせえ
耳障り

んだとコラア!!!

とにかく……
お腹が減って
辛い気持ちも
分かりますが……

ちゃんと
気を引き締めて
ください

このゲームの
中には……

……ああ
分かってる……

このゲームの
世界には……
もう一人……

天の声すらも
作った覚えがない
謎の敵が
紛れ込んでいる……

黒の存在

彼は……
ゲームの世界だけ
ではなく

現実世界にいる
この私にも
その姿を現してきた……

彼は
私にこう
言ったんです……

「俺はやがて
実体を持つ……」

「そうならば……」

「この混沌とした
世界から……」

ようやく
蘇ることが
出来る……と



彼の脅威は
もはやゲームの
世界だけに
とどまらなくなっ
ています

何故
こんな事を
しているのか…

そもそも
彼は一体
何者なのか…

…それすらも未だ
分かっていませんが…

…なあ…天の声…

その事なんだが…

…はい…?
何でしょう?

お前にはまだ
目覚めていない
力がある…

唯一この世界を
脅かすものと
対峙出来る
未知の力…

勇者よ…
その力を目覚めさせ
そして駆使しろ

決して
その力に
飲み込まれるな

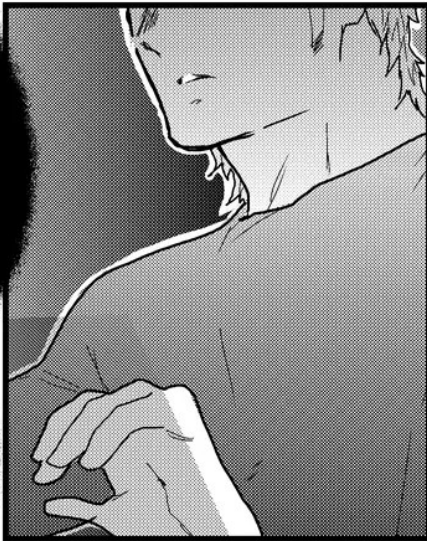
…



…今貴方が置かれてる状況を作ったのは私…

責任は全て私にあります

貴方が気に病むことは一つもない



…どうしたんですか？

…いや…
…何でもない…



私が
貴方を
守ります

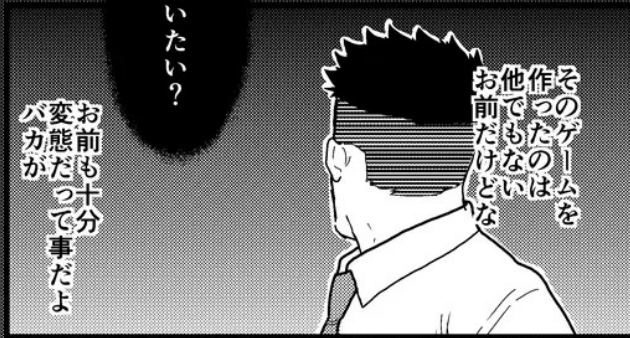


例えどんな
事象が起きたとしても…

このゲームが
終わるまで
私は貴方を
裏切らない
絶対に見捨てない

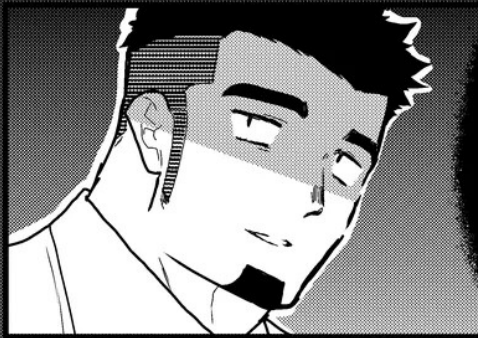
私は…
貴方の味方で
ありつづけます





お前も十分
変態だ
って事だよ
バカが

何が言いたい？



まあ人が作った
キャラで下劣な
行為をするとは
ご遠慮願いたいです



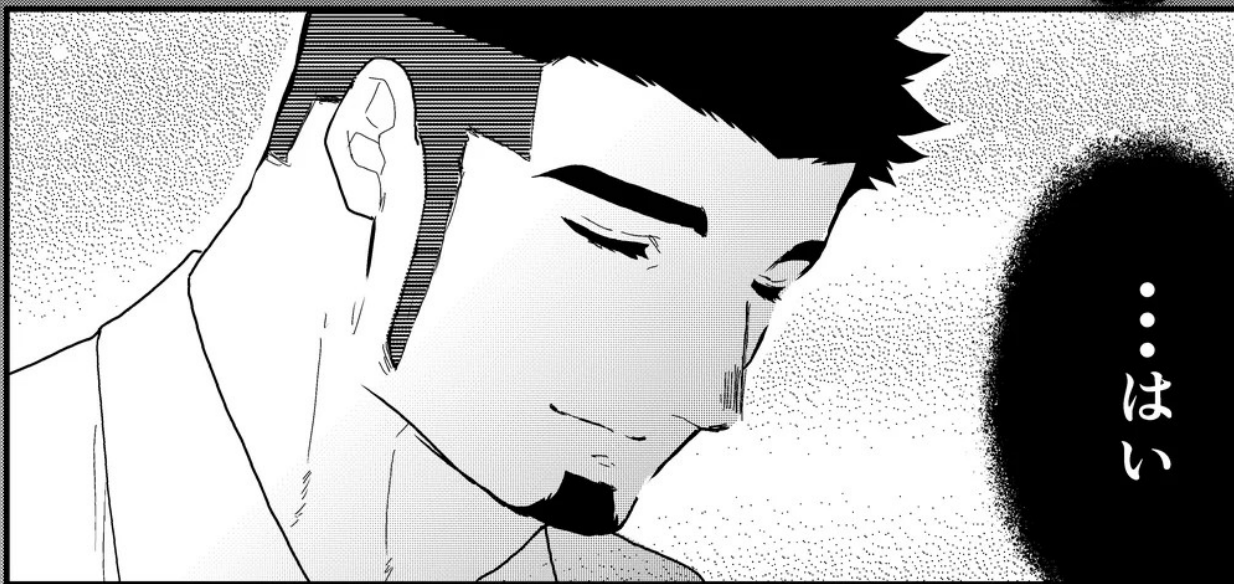
でも……
それなりに
頼りにしてるわ

……ありがとな

天の声



……



……はい



そろそろ
着くはずだ



そのタイタンが
眠るとされる
聖なる地…

私を含め
三大神の一つ…

タイタン…



…どこにですか？
リヴァイアさん
もしかして飯屋？

…いや…



…聖なる…地…

地を司る神の
住处…か

何とか
味方につけたい
所だな

ええ…
水龍様の様に
上手く
ご加護を
受けられれば
いいのですが…

私も長らく
三大神とは
顔を合せていない
今タイタンが眠っていると
される地も…
残念ながら
風のうわさによるもので
信憑性は低い



…なんすか？
リヴァイアさん…
人の顔チラチラ
見て…



…それに…

…？



そしておそらく
タイタンも
私と同様力を封じられ
貶められている
可能性が高い…

私も…
必ず上手くいくとは
断言できぬ…



…な…何すか？



…約束…？

約束をして欲しいのだ…

いや…他の神と会う前に…

タイタンと会う前に…



必ず最後には私を抱いて欲しい…

例えどんなことがあっても…

必ず…

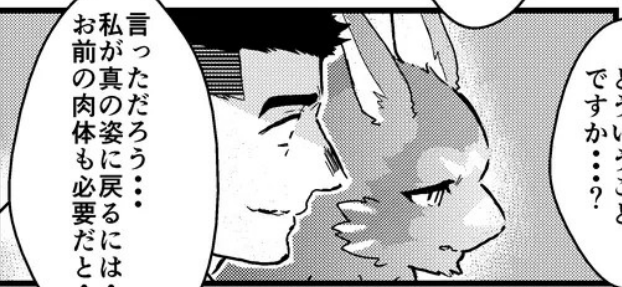


…はい？



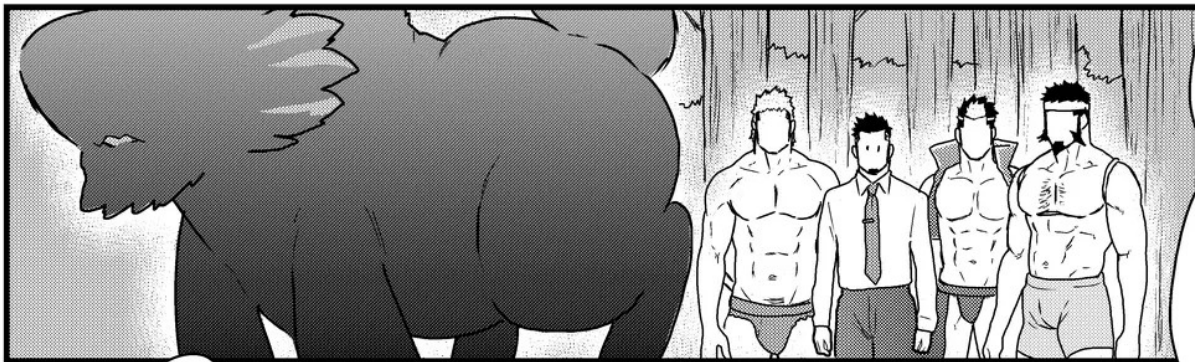
…？

それはつまり…他の神にとってもお前は…ッ



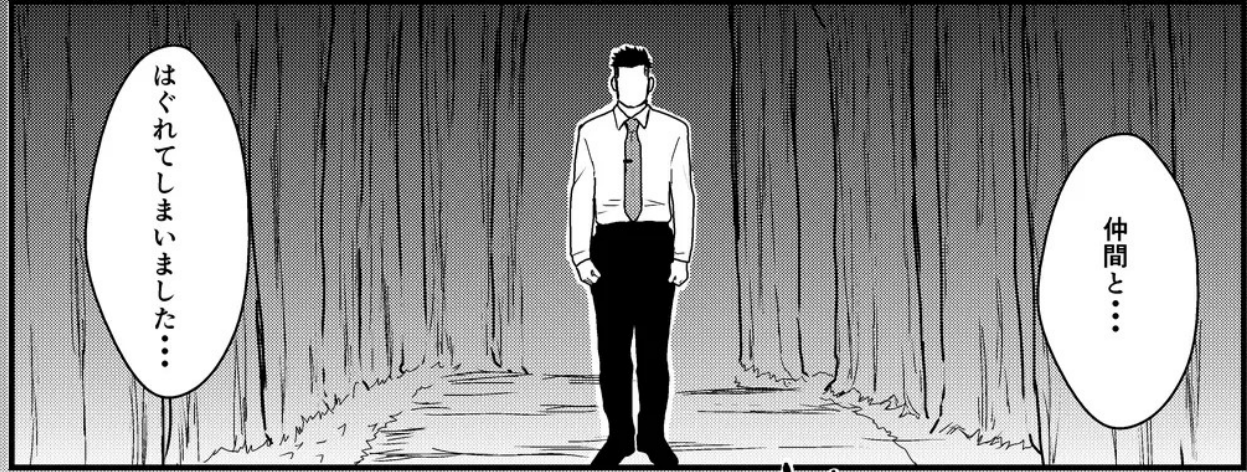
言っただろう…私が真の姿に戻るには…お前の肉体も必要だと…

ど…どういふことですか…？



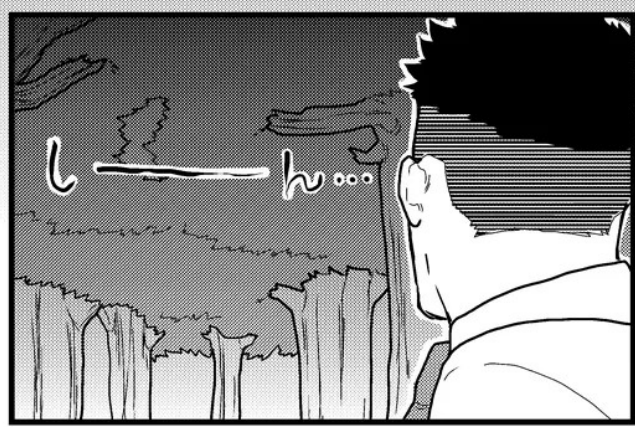
いきなりなんです
がわたくし...

えー...ということ
で



はぐれてしま
いました...

仲間と...



応答しろ!!!

おい聞
こえる
か
天の
声!!!

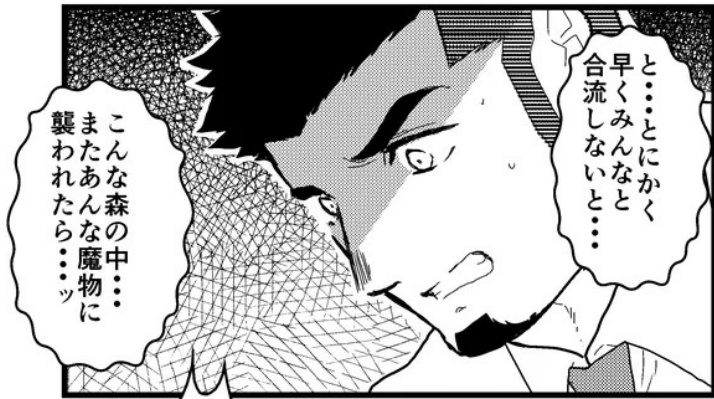


あの後
すぐに巨大で狂暴な魔物に
襲われて...
無我夢中で逃げ回って
うちに
気が付けば俺だけ
迷子に...



くそ...ッ
いつもの如くだが
こんな時に限って
答えやしねえ...ッ

何が
必ず守るだよ
あいつ...ッ



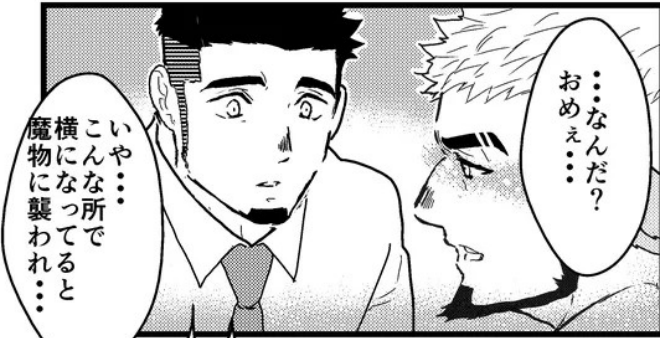
と……とにかく
早くみんなと
合流しないと……



確かに
仲間が戦ってるのを
尻目に逃げ出したのは
俺だけ……ッ



ひ……
人……?
(ガチムチ)

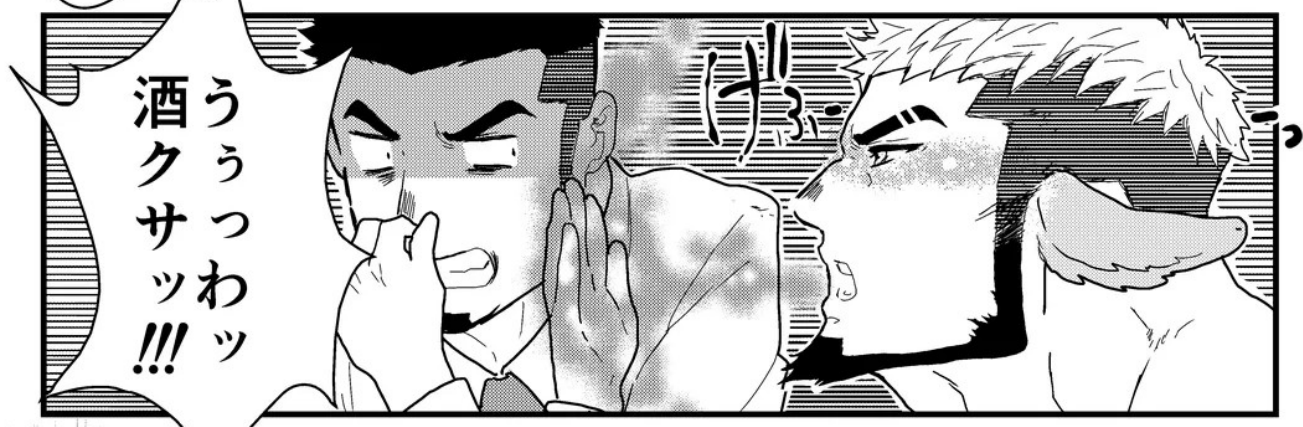


いや...
こんな所で
横になつてると
魔物に襲われ...

...なんだ?
おめえ...

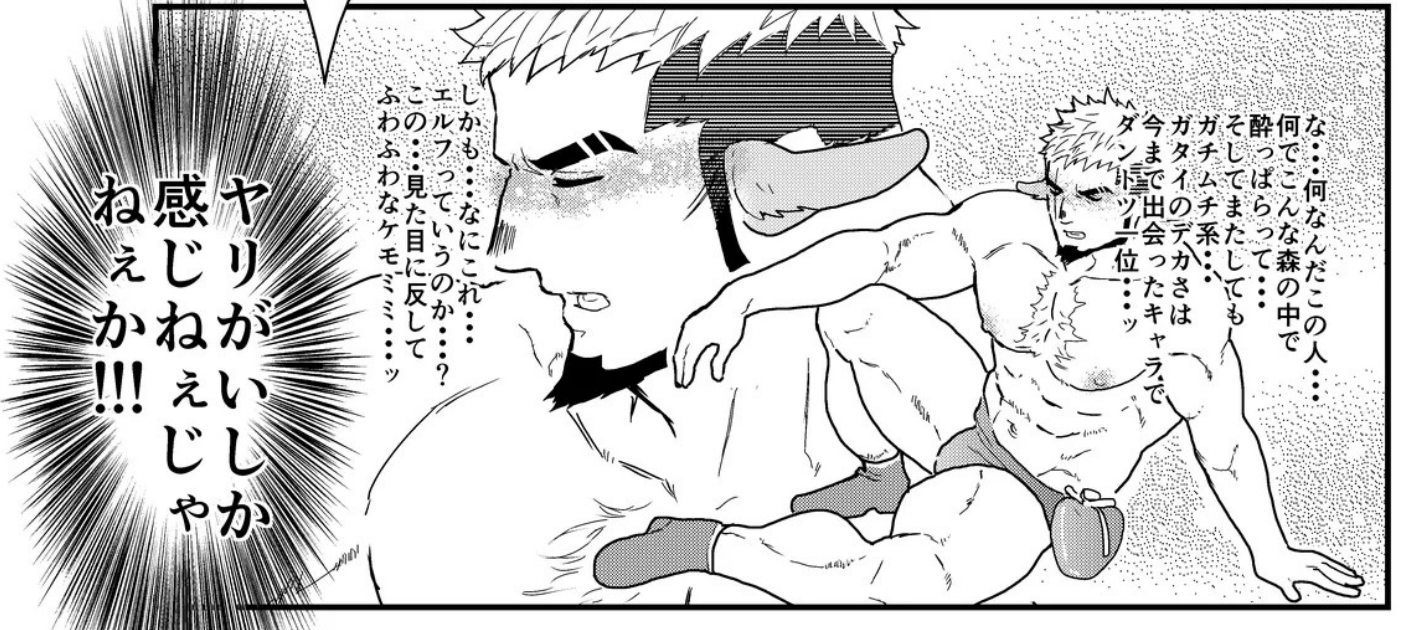


あ...
あの...?



ううっわッ
酒クサッ!!!

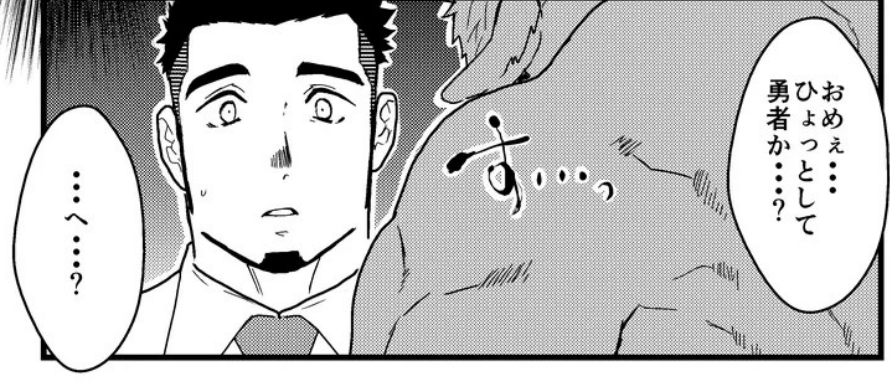
げっ



ヤリがいし
感じねえ
か!!!

しかも...なにこれ...
エルフっていうのか...?
この...見た目に反して
ふわふわなケモミミ...ッ

な...何なんだこの人...
何でこんな森の中で
酔っぱらって...
そしてまたしても
ガチムチ系...
ガタイのデカさは
今まで出会ったキャラで
ダン...位...ッ



...へ...?

おめえ...
ひよつとして
勇者か...?



...ん...?

…その胸元についてるやつ…勇者の証だろ…？

え…ま…ま…ああ…そうなるみたいですが…

で…で…で…
でつかああああ!!!
立つと余計
デカイ!!!

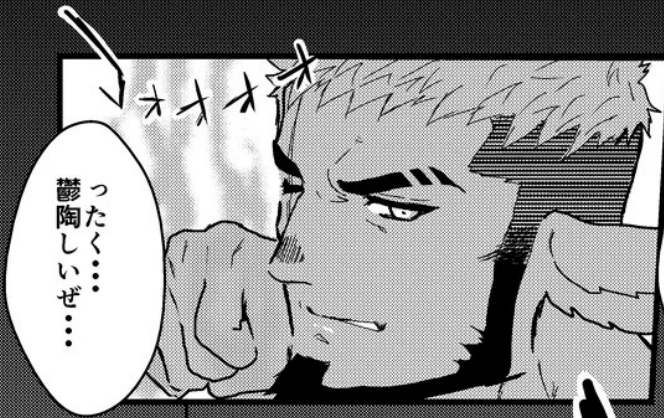
へえ…
ついに現れたのか…
伝説の勇者が…

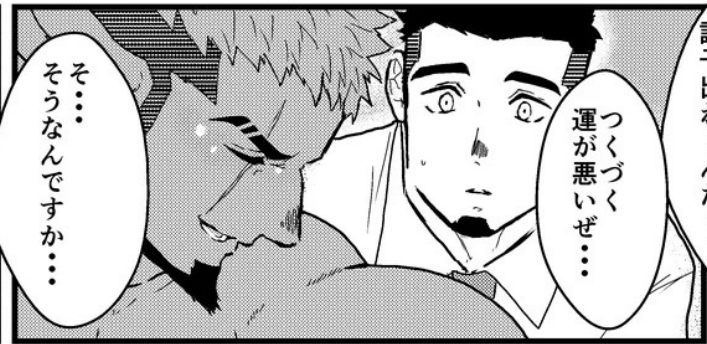
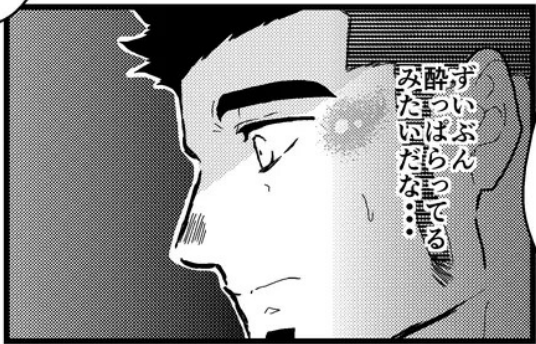
あ…あの…
貴方は…
その…
エルフ…さん？

…あ？
俺か？

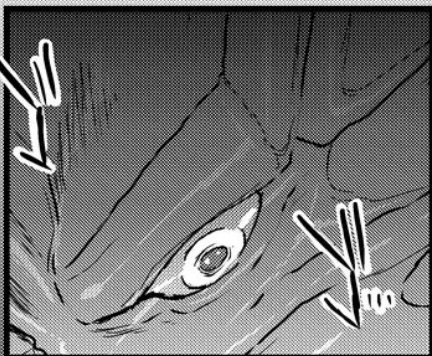
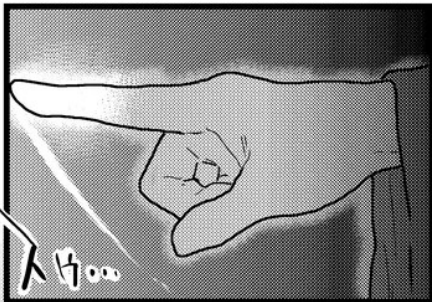
俺は…

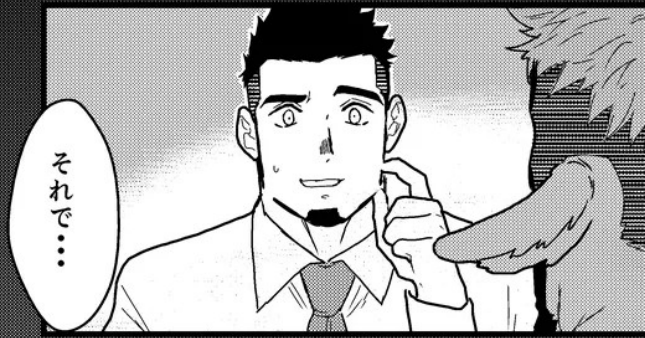






何度やっても
酒飲んでる時じゃ
ねえと
調子出ねえんだ…





それで...



あ...
それは...その...
仲間とはぐれて
しまつて...

ところでおめえ...
伝説の勇者様が...
なんでこんな所で
うろちよろしてんだ



あ...あ...あ...

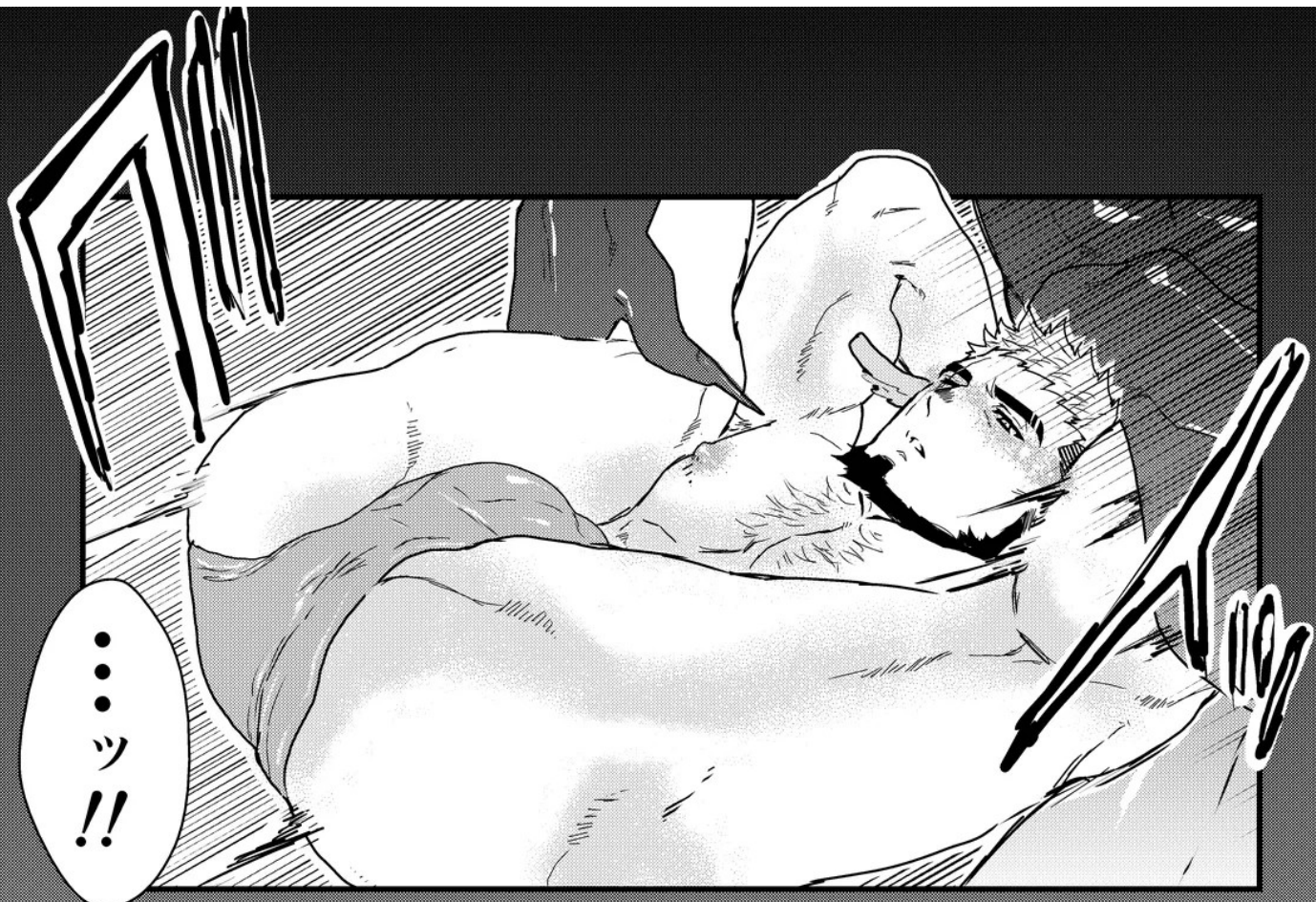
...あ?



...まだ
生きてやがったのか...

仲間まで
連れてきやがって...

...つたく...
つくづく運が
悪いな...



…ツ!!



ちよ…ツ
余裕かましてる
場合じゃないっすよ

早く
逃げないと…ツ



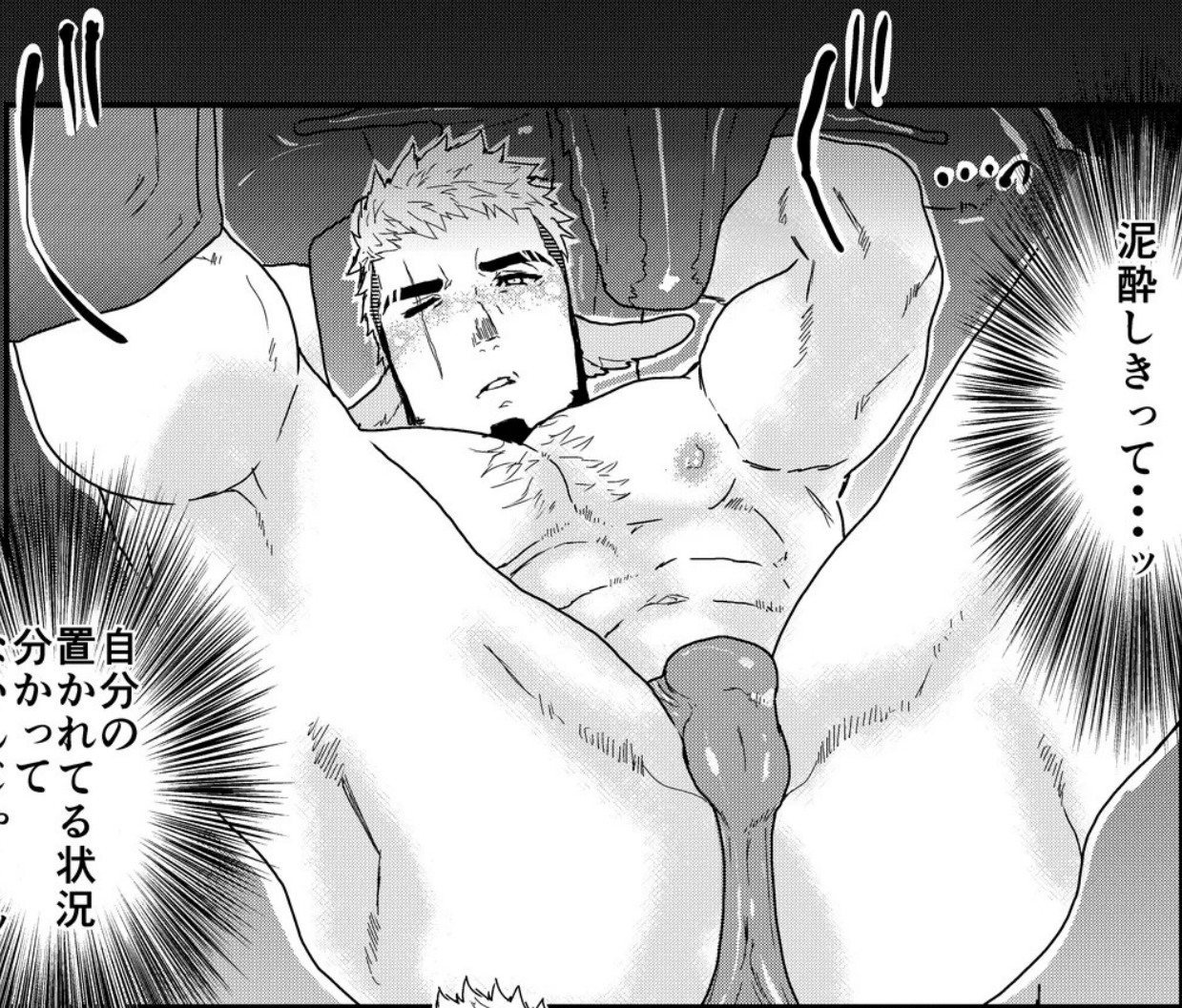
…なんだこりゃ…

おいおい…
何しようってんだあ?
こいつら…



待てば…
このエルラ…
出会った時から
物凄く酒臭かった…

つてことは
もじかして…ツ



泥酔しきって……ッ

自分の置かれてる状況
分かってるじゃないんじや……ッ



おあ？



おいコラ
離せ……

俺あもつと
酒が飲みたい……





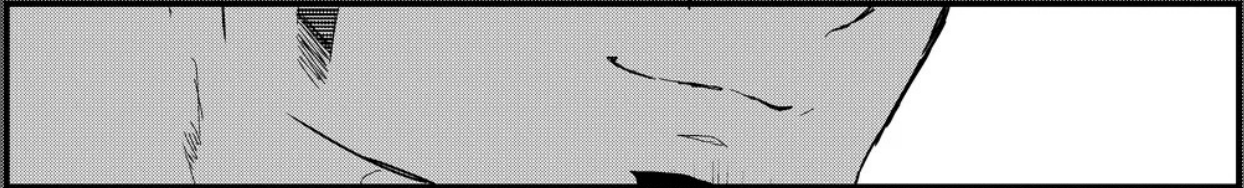
そーいえは…
起こは
ゲイ向け
RPGの世界…

…つて…
アレ?



おい
なにしがんだ
おめえらッ

しーッ
静かにッ
これ以上
刺激しないで…ッ



エロイベント
発生だろーが
あぁあぁあぁ!!!

離せッ

バカ野郎ッ



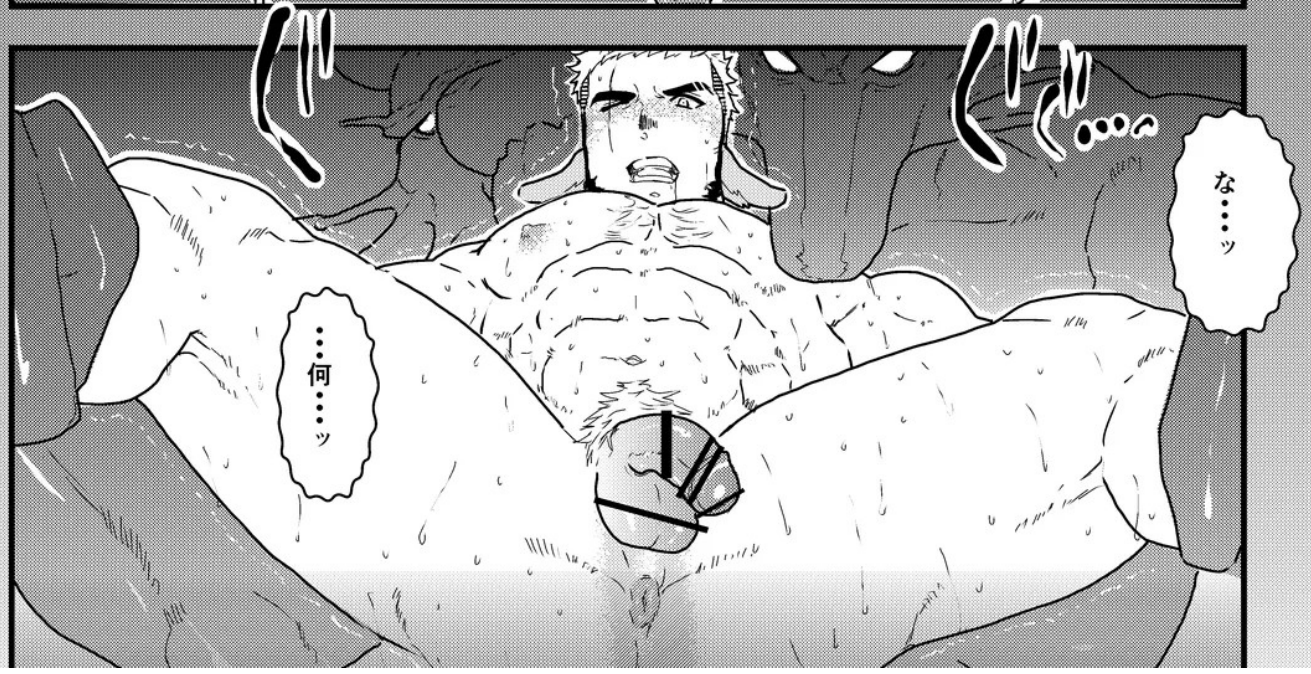
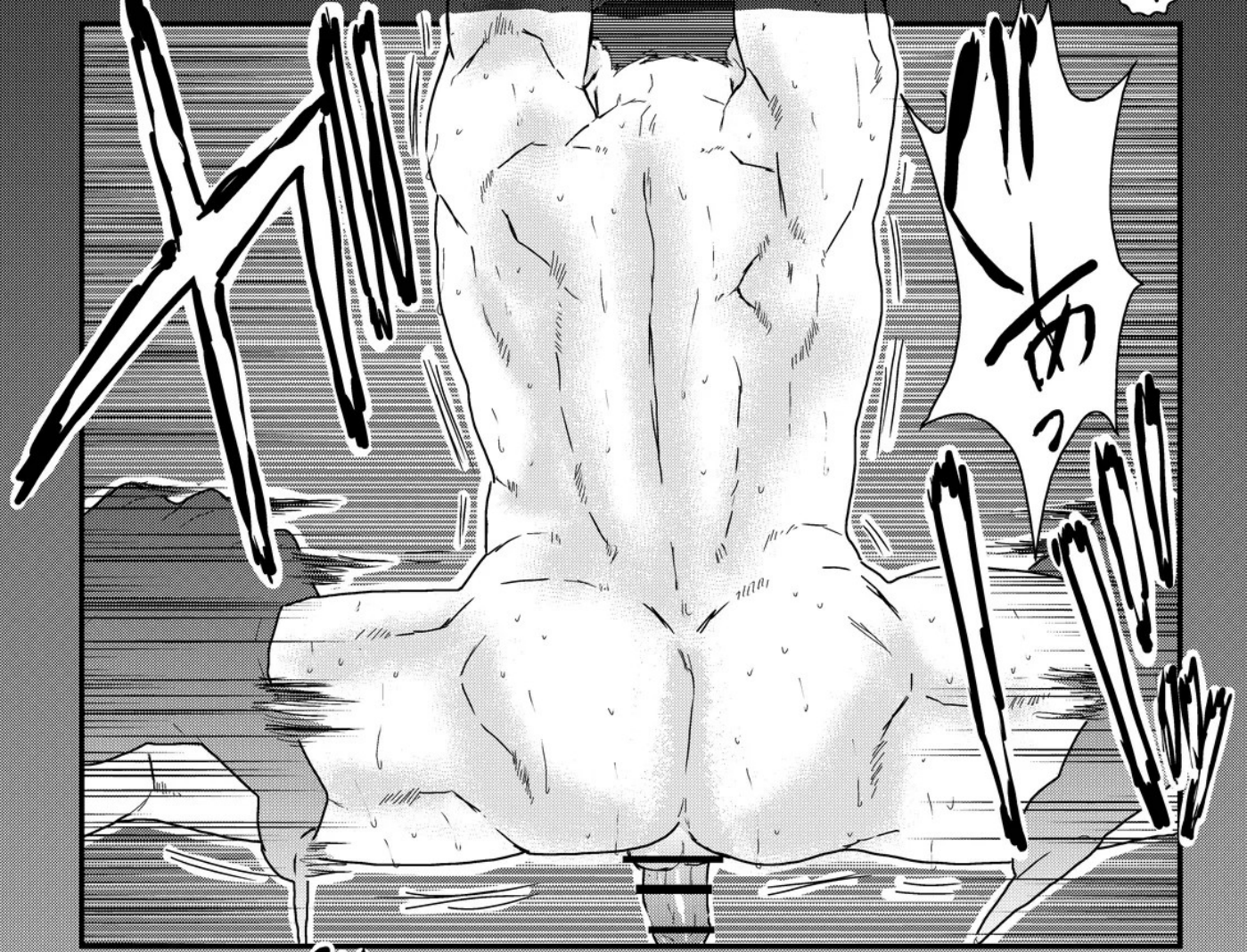
俺としたことが…

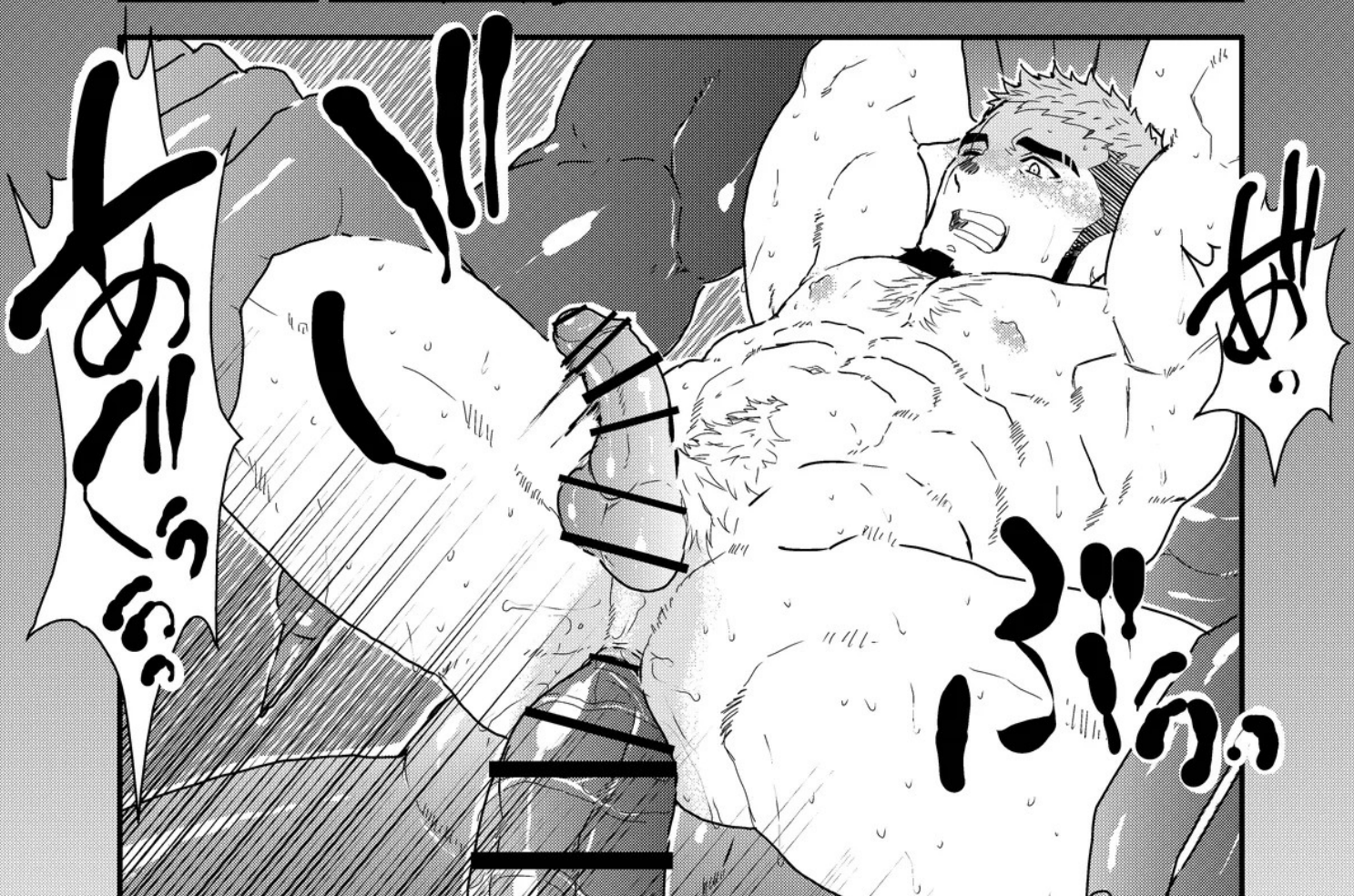
何を血迷った事を
してるんだ…



この状況は
俺にとつてまさに好機…

これはいつもの…





魔物の
巨根が……ッ
!!!

ただでさえ
ガタイの大きい男が
さらに大きな魔力に
さらされて無失理に
責められる……ッ!!!

なんと
いう
鬼畜……ッ!!!





俺は勇者……以上
勇者である以上
あのガチムチ
エルフを
助けなければ……
例えゲームの
世界と言えど
この場面で
救わなければ
俺は勇者である
前に人として
疑われる……
ことになる……
だからこそここで
問われるのは
資質……人間の
資質……俺が
いかに俺が
勇者という器に
等しい人間か
試されている……

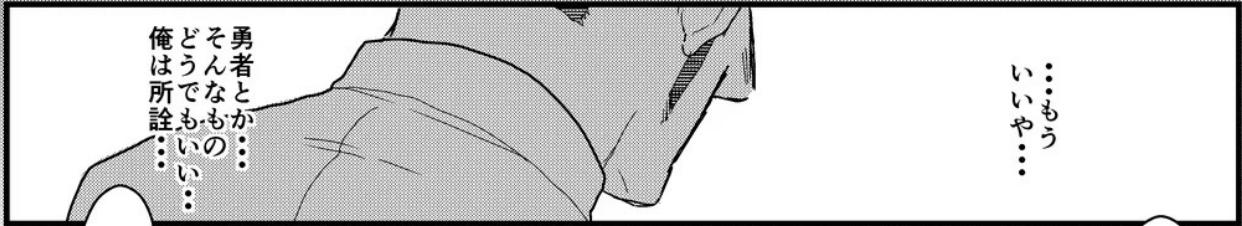
そう……
俺は勇者……
悪を憎み
正義を貫く存在……ッ

果敢であり
勇敢な男……ッ

エルフさん!!!
待っててください!!!

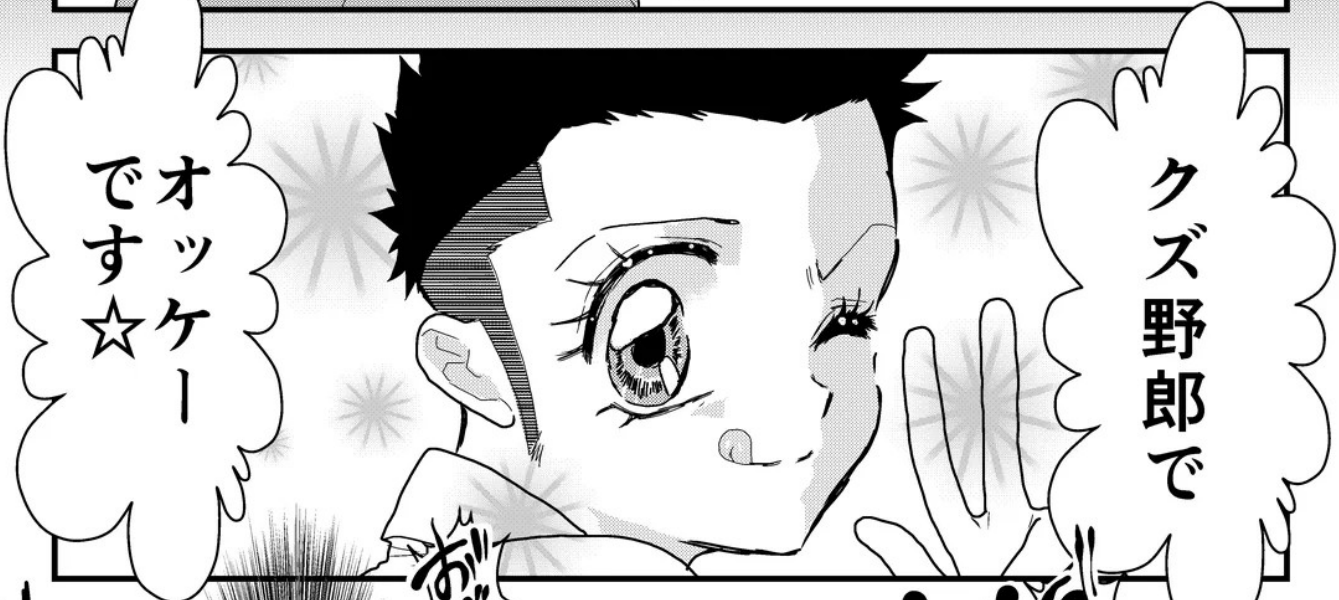
今助けに……ッ





勇者とか...
そんなもの...
どうでもいい...
俺は所詮...

...
...
...



クズ野郎で

オツケー
です☆

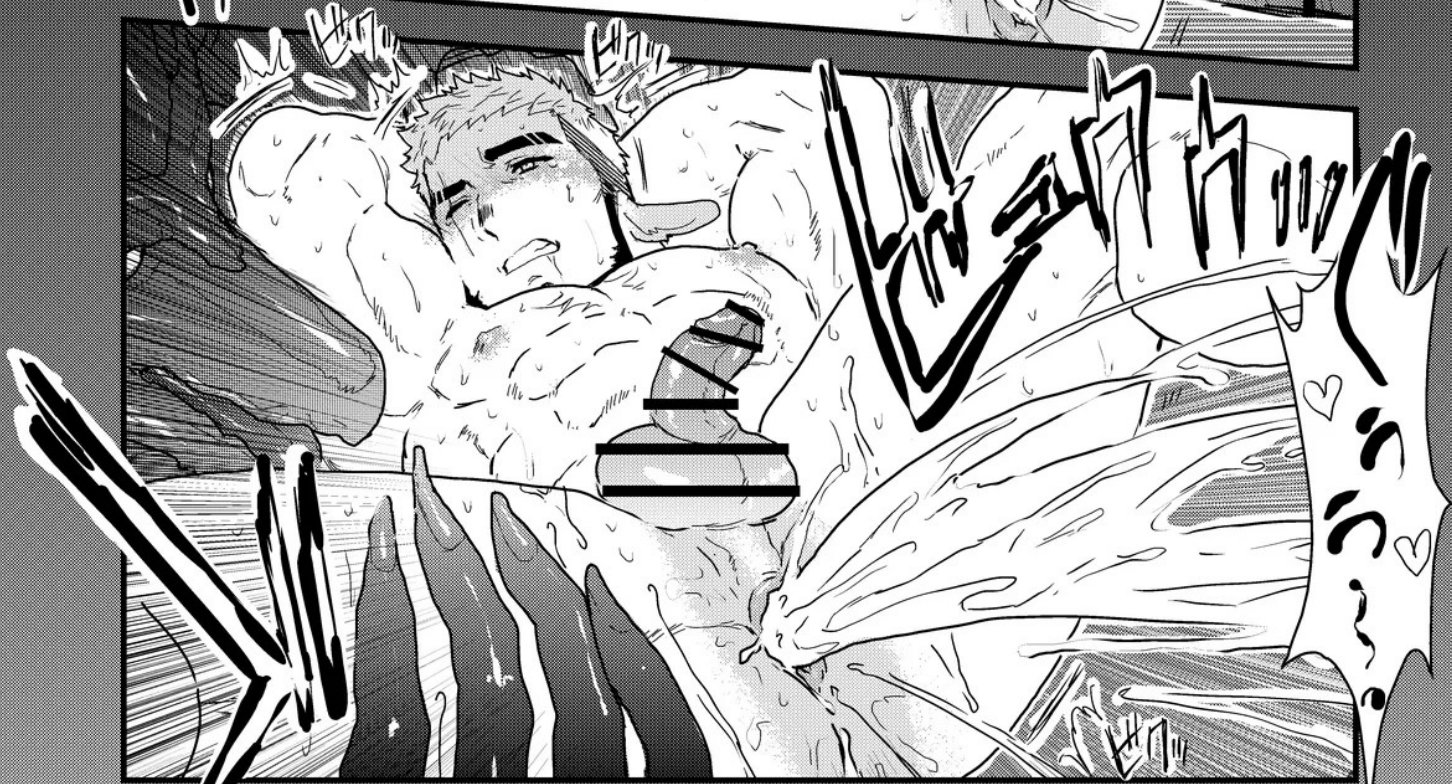
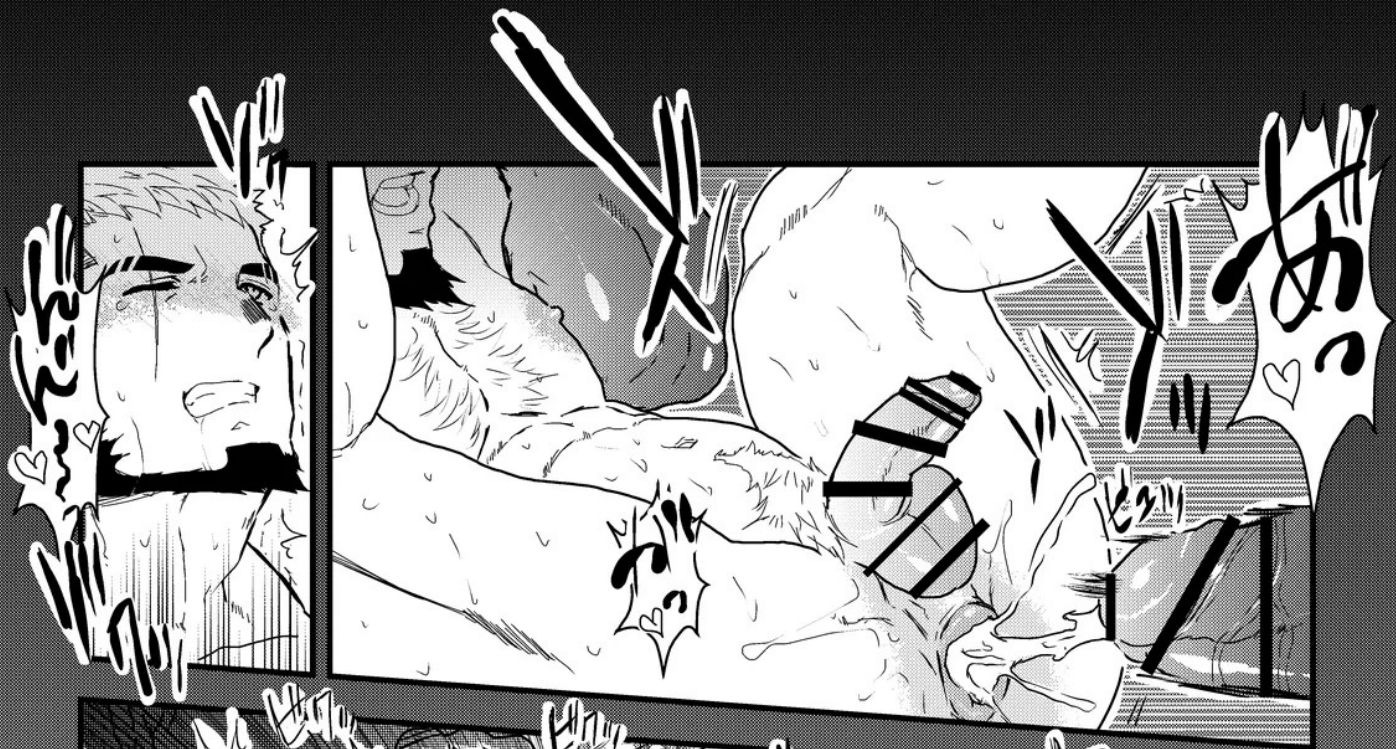


お天道様が許しても

もしそんな選択
選ぼうとするやつがいたら...

そもそもこんな俺得な
下キツイエロシーン
見せられて
助けに行くなんて
邪道なコマンド選択
俺には
出来ない...

この俺が
許さねえ!!!



おめえ...らッ

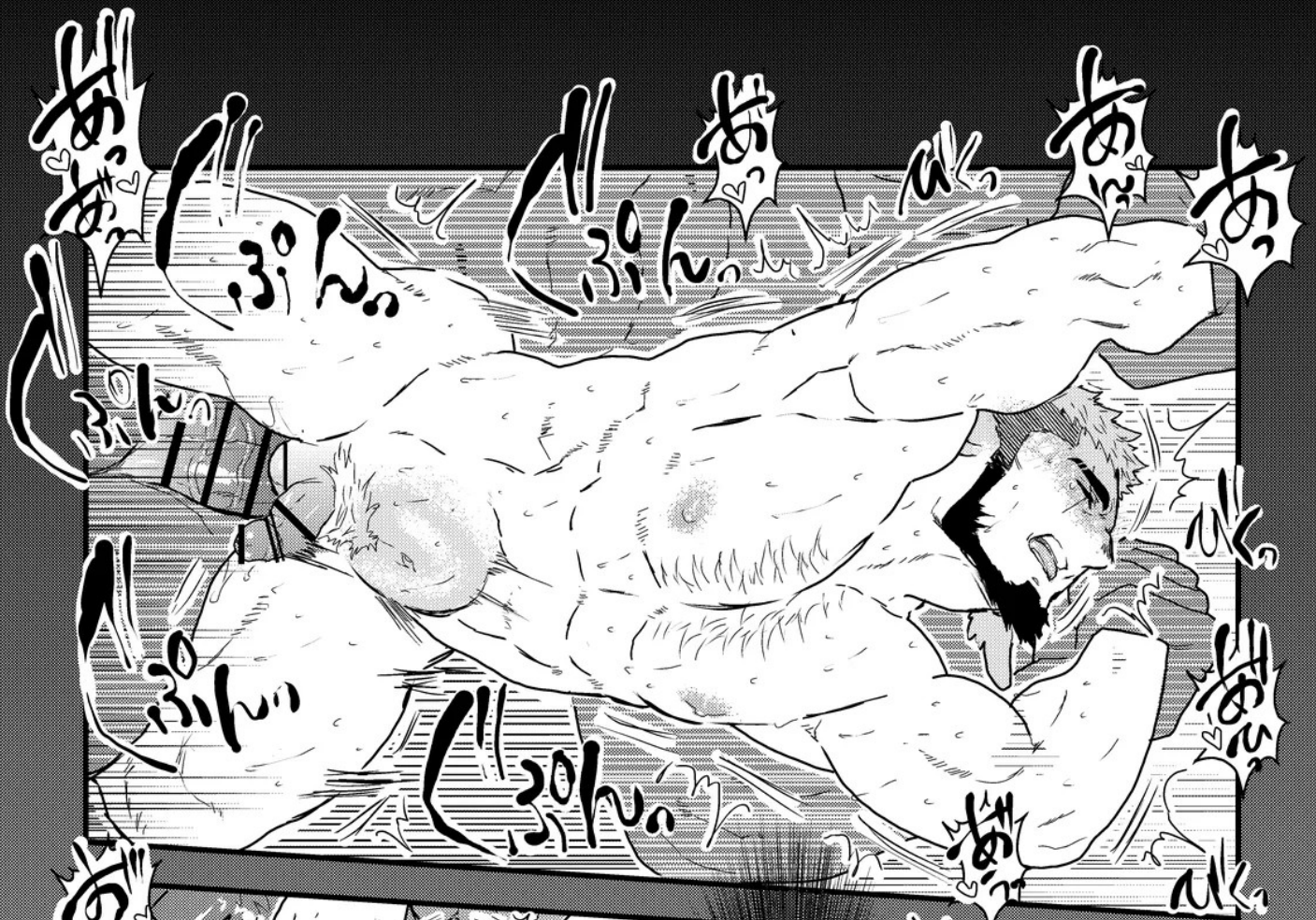
絶対え...ツ

許さ...

こんな...ことツ

ね...





出血性ショック死で
死んじゃまう……ッ!!!

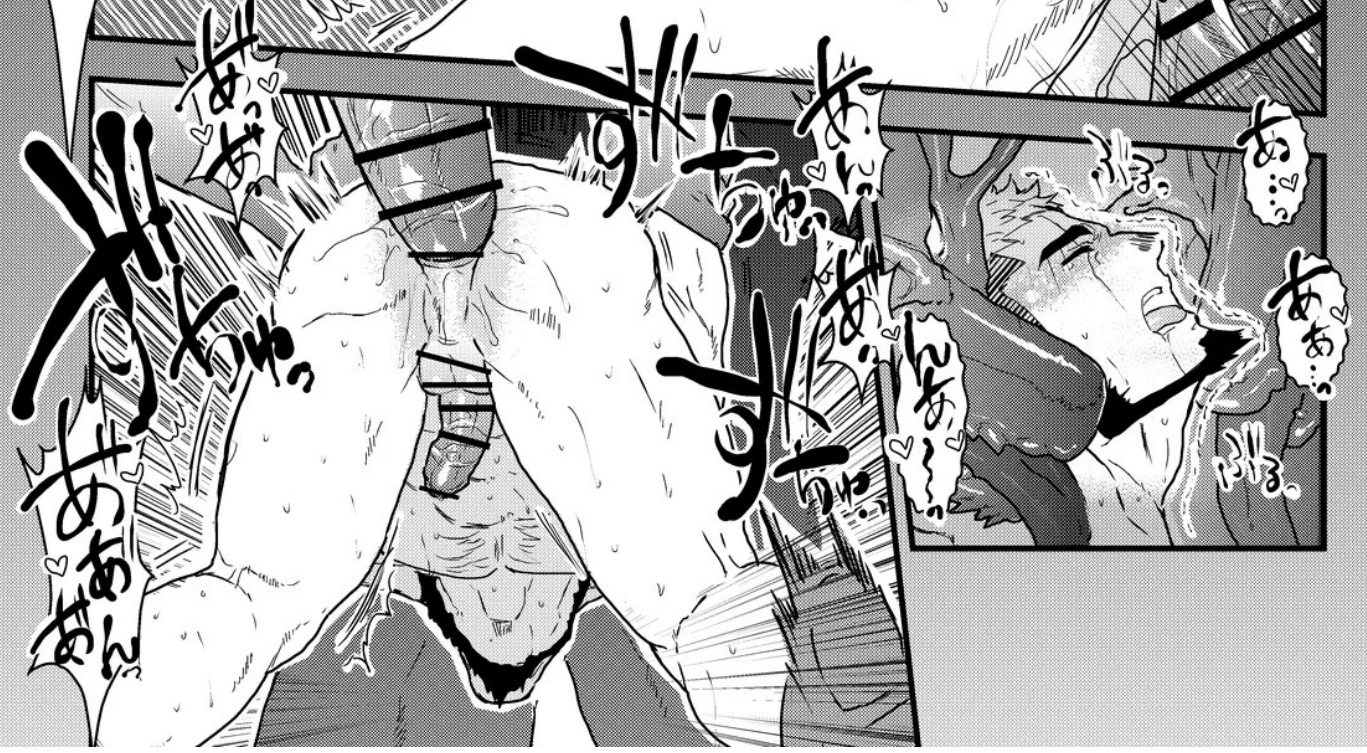
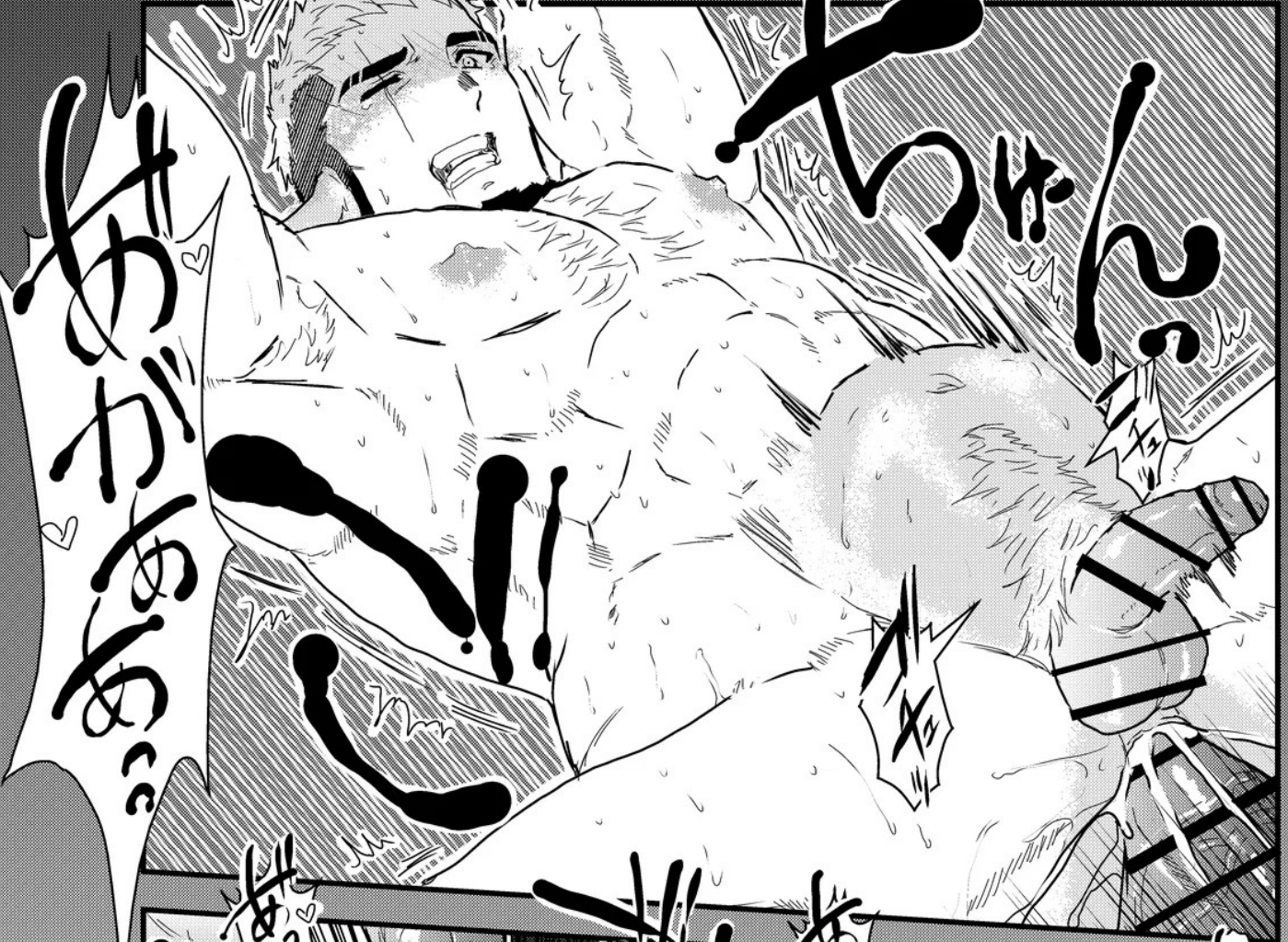
魔物の精液で
腹が膨れてるのに……ッ

今度は
後ろから……ッ

今までもそうだったが……
なんという鬼畜な
エロシンの連発……ッ

これじゃ
鼻血なんて
レベルじゃねえ……ッ

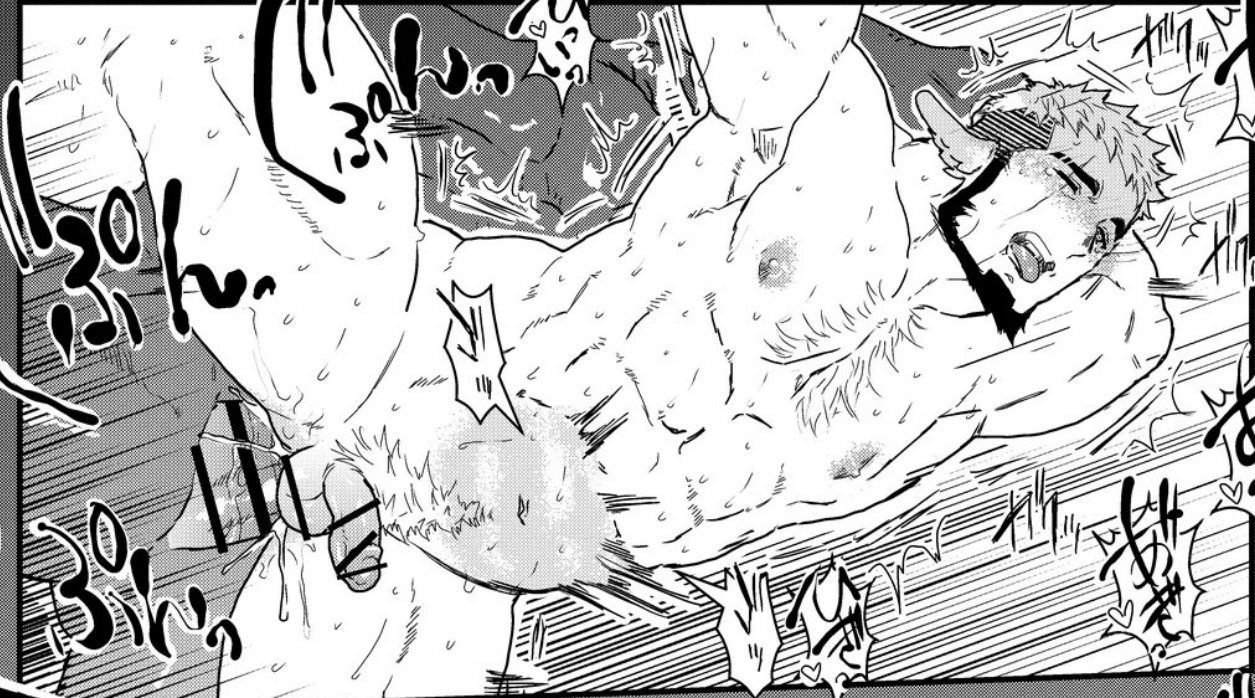






魔物の
腰使いの
が
つた
た
た

これは……ッ



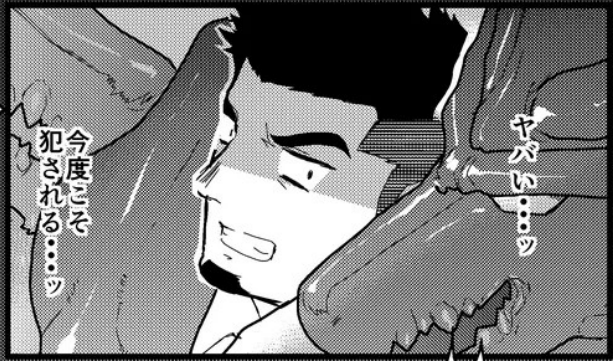




果てた…ッ

この魔物…ッ
留めをさしたきたか…ッ





ヤバい……ッ

今度こそ
犯される……ッ



おいッ
天の声ッ

答えろッ
おいッ



……ッ
!!!



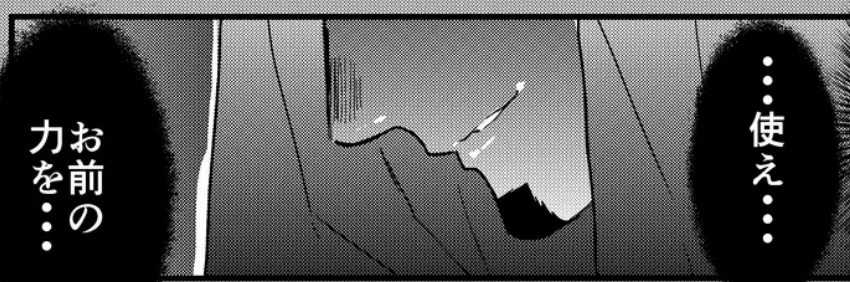
駄目だ……ッ
このままじゃ俺も……ッ

この魔物達に……ッ



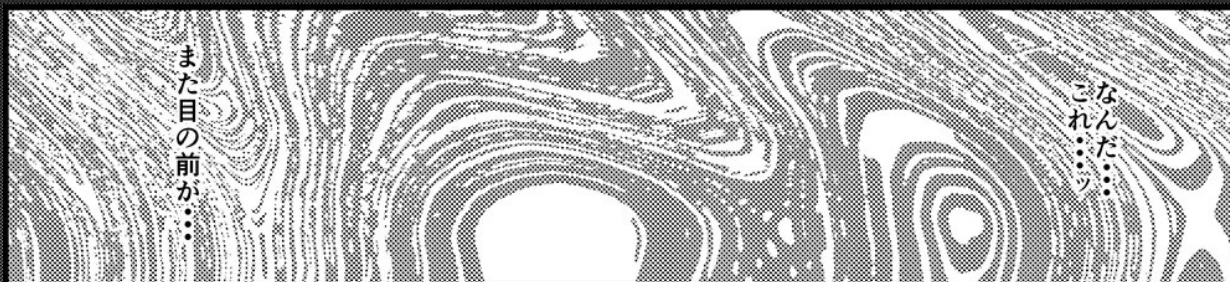
誰か……ッ

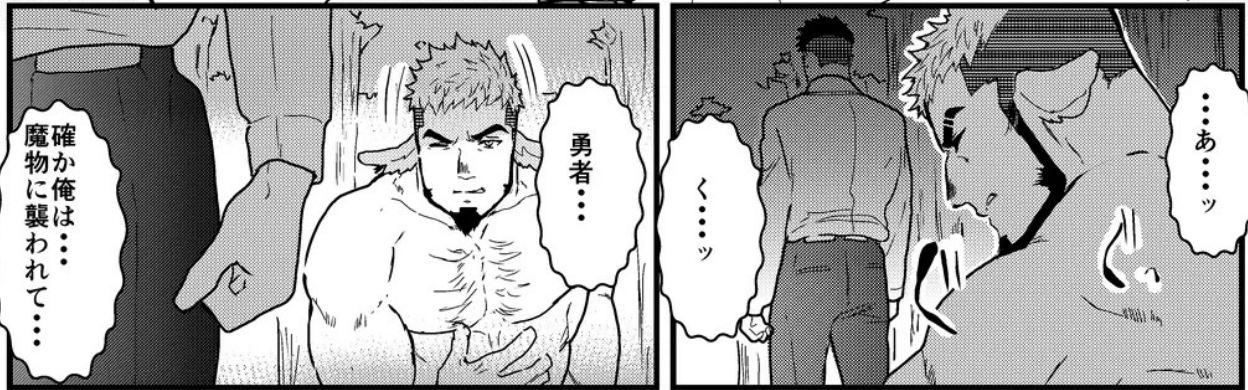
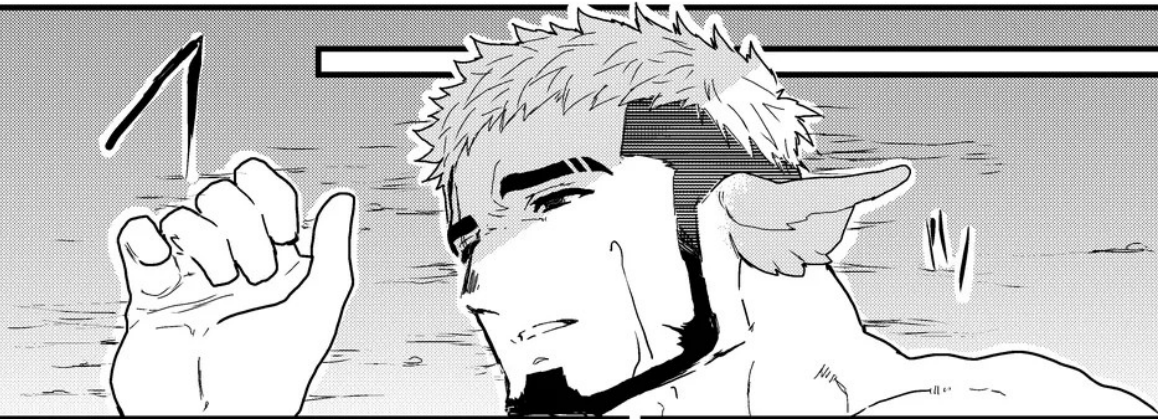
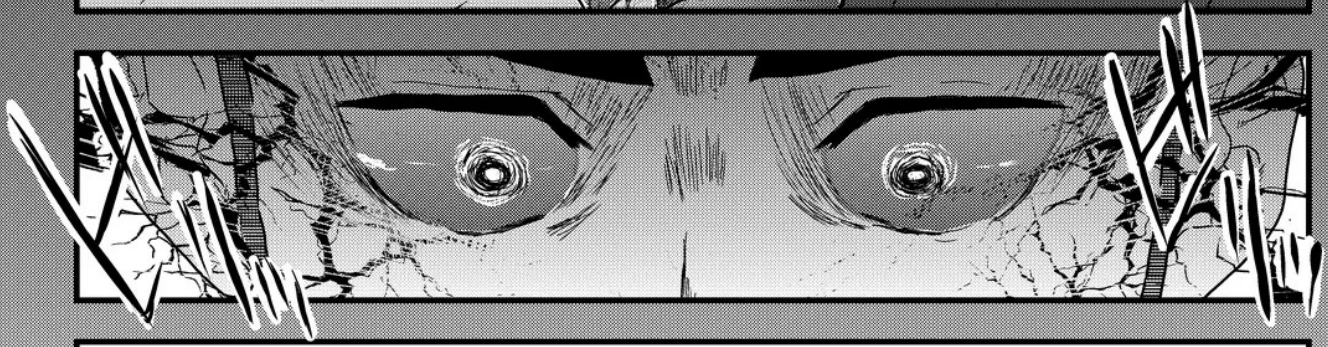
誰か助け……ッ



……使え……

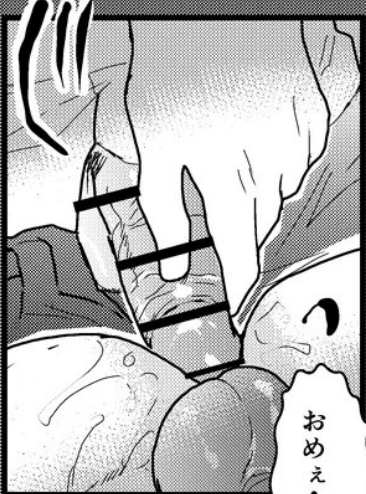
お前の
力を……

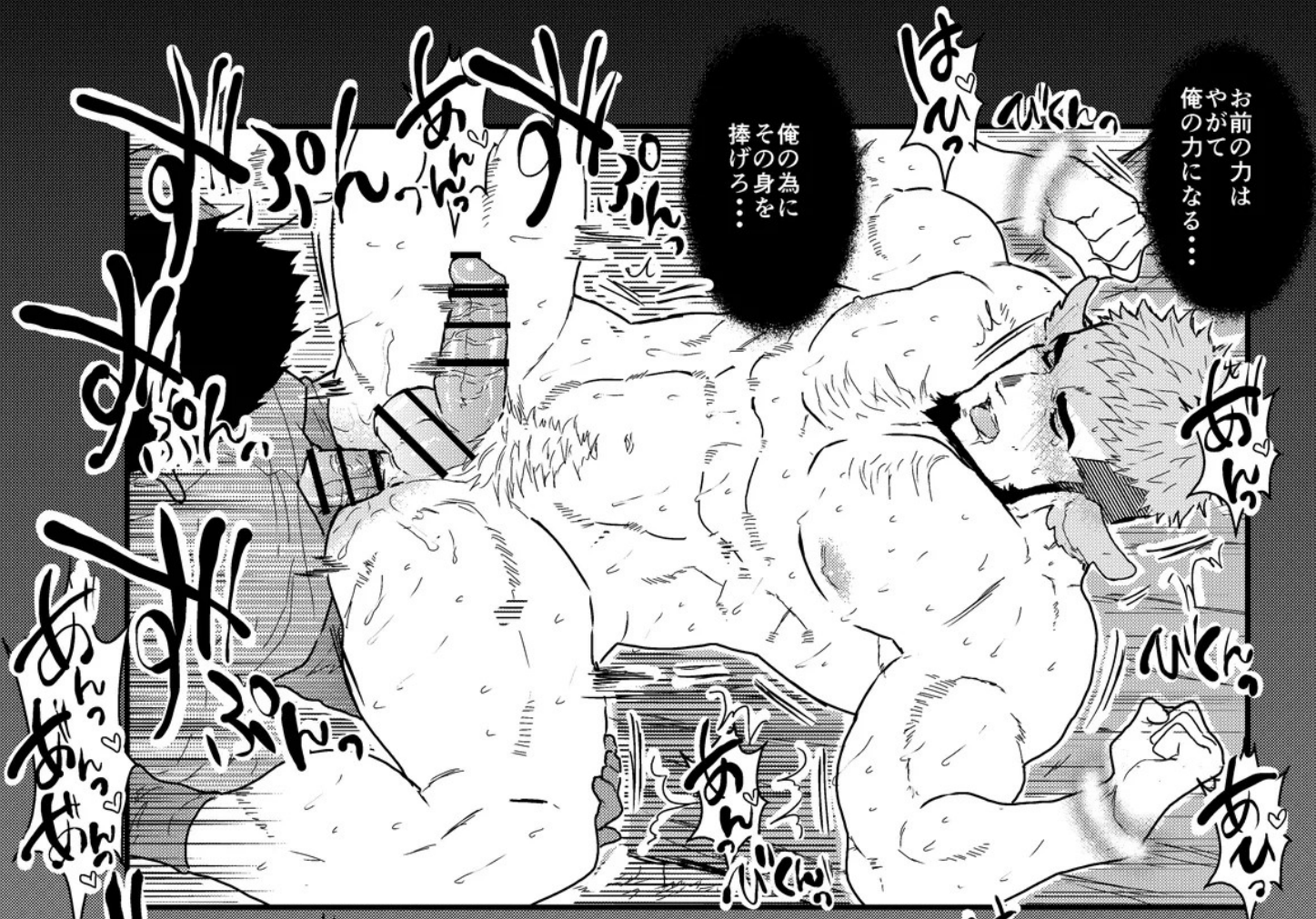






俺の力に
なるために...





俺の為に
その身を
捧げろ...

お前の力は
やがて
俺の力になる...



お前の中が
俺を
締め付けてくる...

いざ...
もっと感じろ...

俺が力を
得るために...

く……そ……ッ

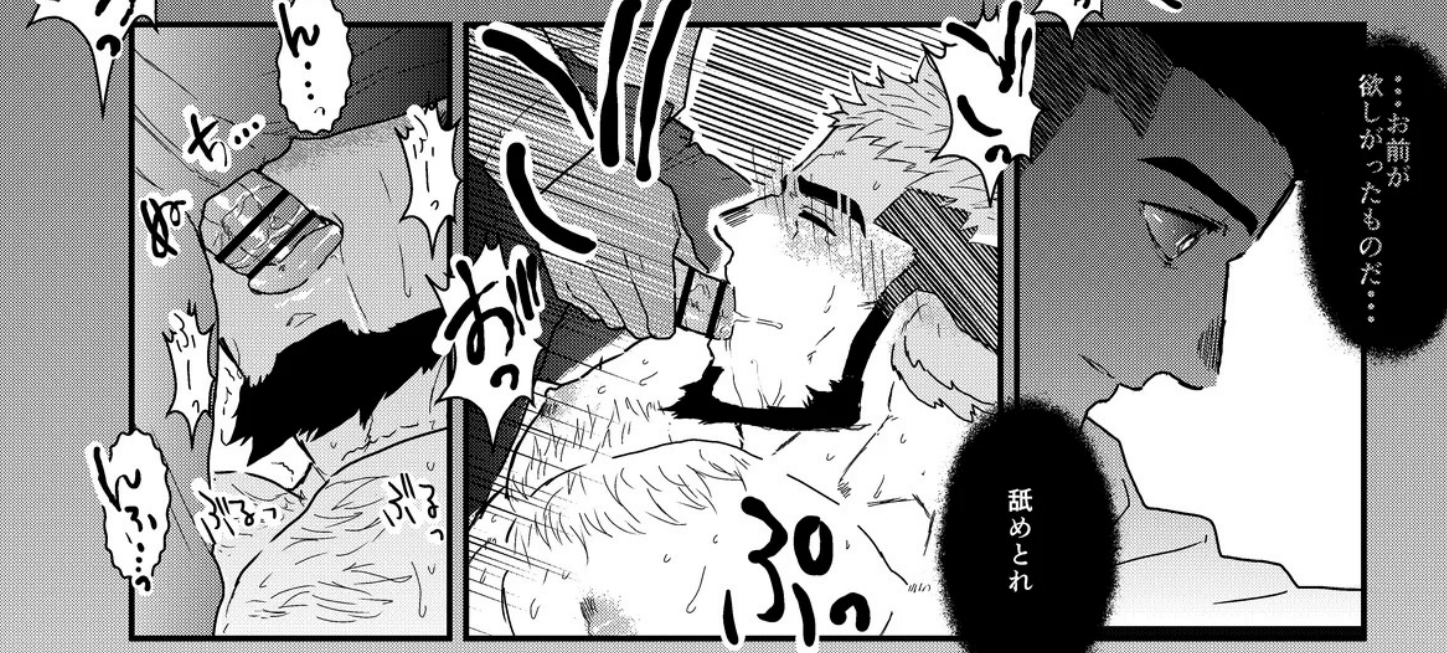
ふぎ……けんなッ

俺……は……ッ

無駄な
あがきは
やめろ……

素直に
俺に身を委ねろ……





。。お前が
欲しかったものだ。。

舐めとれ



...美味しいか?
お前の欲しかった
ものは...

...ふあ...

おらひひ...です...



これからは
酒の代わりに
俺のものを飲め...

いいな...?



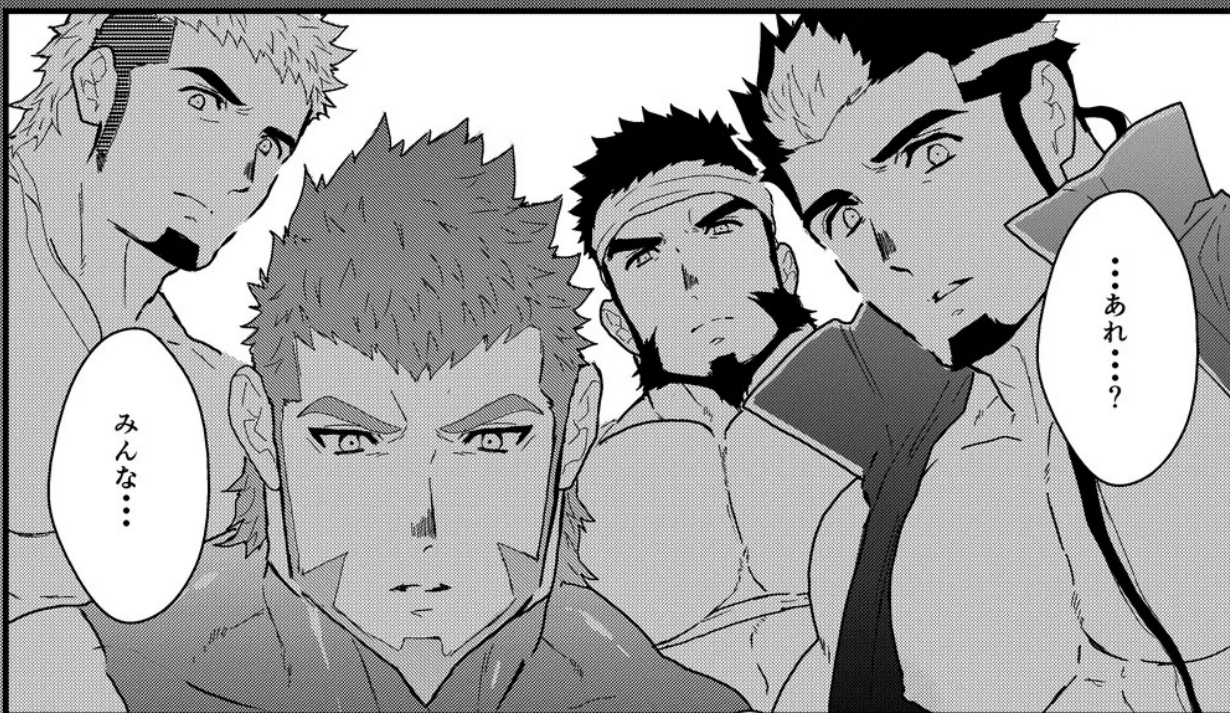
勇者様...

ふあい...

おい...

勇者よ...

おい...
勇者...



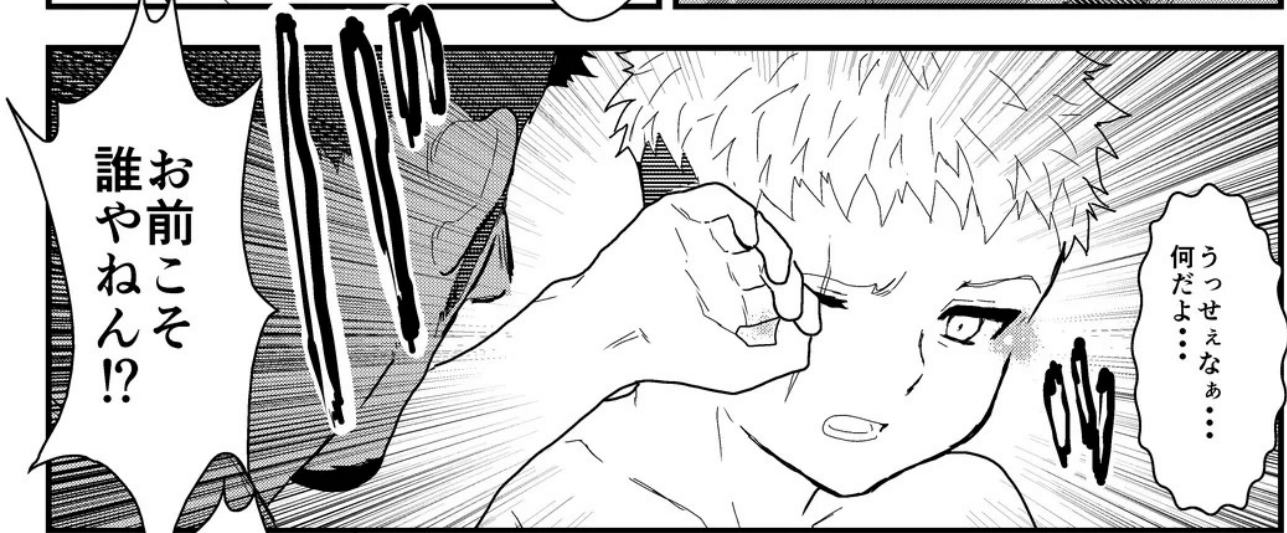
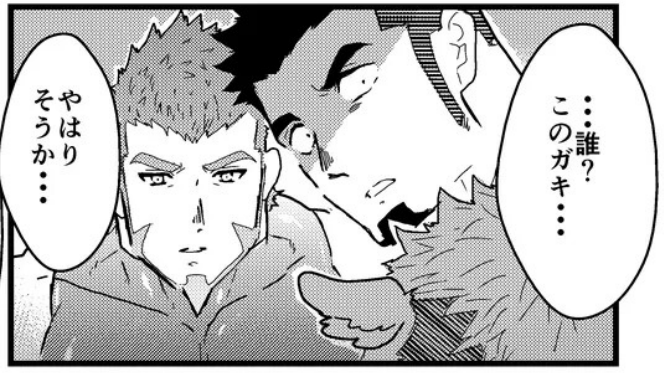
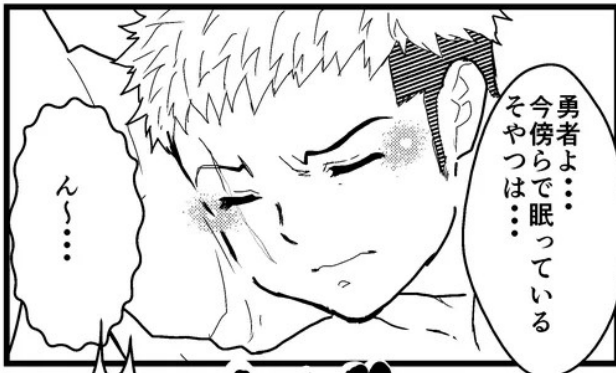
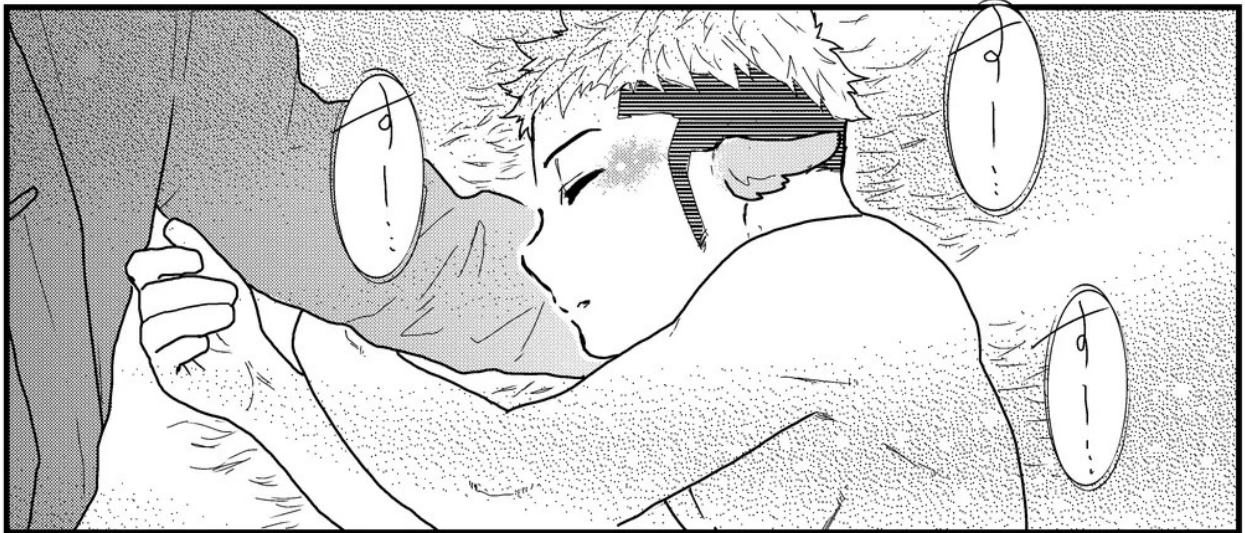
そうだ...
みんなとはぐれて
迷子になって...

そしたら
森で酔っぱらってる
妙にガタイのデカイ
エルフに出会って...



何やってるんだ
こんな所で...

心配したんですよ
急になくなる
から...



…で？
分かったのかよ
俺達神を
貶めたやつが
誰なのか…

ああ…
こやつらが言うには
「黒の存在」というものが
この世界を改変
してしまつたらしく…

ちよつと待って
ちよつと待って
話勝手に
進めないで!!!

…あ？

だって…
飯にそのガキが
タイタンだったとして…

じゃ
俺が森の中で
出会つた
エルフは…ッ

あれも俺だよ

リヴァアアサンと
一緒に貶められた
姿だけだな

誰が
ガキで
エルフだ

…どういふこと…ッ

俺は地の神
タイタンとして
人間の営みを
長くにわたって
見守ってきた

その際
人間達から
よく酒を
振舞われて
たんだ…

…それが理由かは
知らねえが

貶められた今でも
一定量酒を飲むと
一時的に力を
回復出来る

ただし…
その土地土地の
地酒に限るが…

地酒って…
地の神だからって
地酒…!?

「地」しか
被ってねえ
じゃん…

仕方ねえだろ
俺だつてよく
分かんねえんだから

お神酒上がらぬ
神はなし…ですか

まあ
そういう事
なるんだろうな

は？
どゆことよ？



古くからお酒と神とは深い関りがあると聞きます

神にお酒を供えることによって人と神とが一体となれるという...

ええ...何それ...それでデカくなったり縮んだりできるの? 名探偵コロンじゃん...

とにかくハギユヨグが見つけてくれたんだなお手柄だ!

やるじゃねえか...勇者

ええお見事です!

いや...迷子になっただけだけだ...偶然八合わせただけだけだ



ところでタイタン話があるのだが...

...その話ってのは俺達を貶めた「黒の存在」って奴の話か?

ああ...今私も真の姿に戻るべくこやつらと共に旅に出ている...

私達を貶めた「黒の存在」...その姿を見極める為に...



非常に危険な存在なんです魔物を闊歩させこの世界すらも変えようとしている...

俺達冒険者にとっちゃ野放しには出来ねえ存在なんだ

そこでタイタンお前にも力を貸して欲しいのだが...



もし奴を突き止めることが出来れば私達も真の姿に戻れるかもしれぬ...

...だから...

...





…分かった
俺も力を貸そう

ありがとうございます
ございます!!!



俺も酔っぱらってて
記憶が薄いけど…

この俺を
襲ったあの魔物共…
そいつらを
動かしているのが
その「黒の存在」って
いうことか…

…はい…
そうなるみたい…
です…



過度な期待は
するな

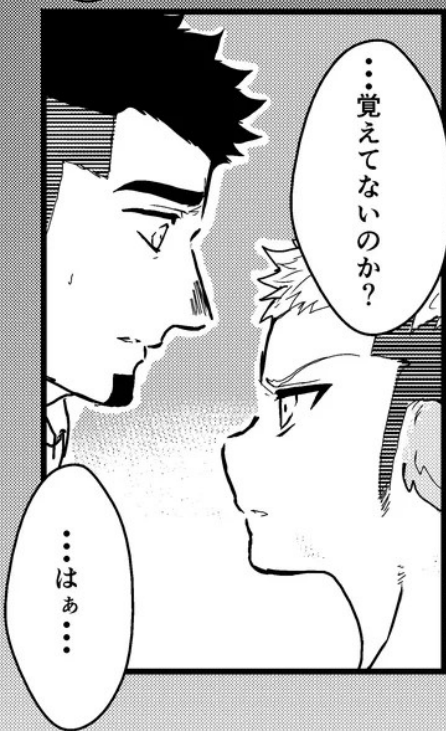
…ああ
分かっている



おめえらと
旅をする事に
よって
徐々に力を
取り戻す事が
出来ればいいが…

見てもの通り
俺も本来の力は
発揮できねえ

ただし



…覚えてないのか?

…はあ…



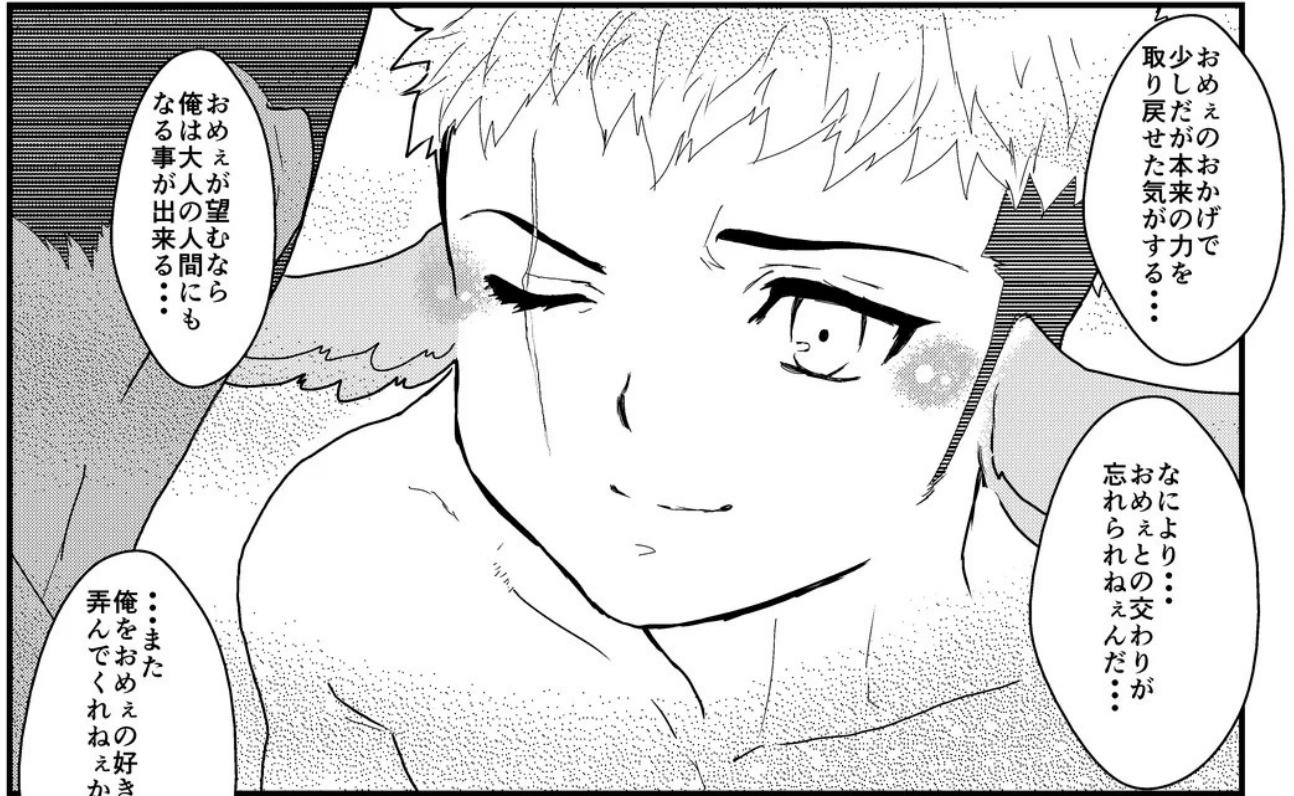
…おめえの体…
すげえ良かったぜ…

…え?
どういうことですか?



それと
勇者…

はい?



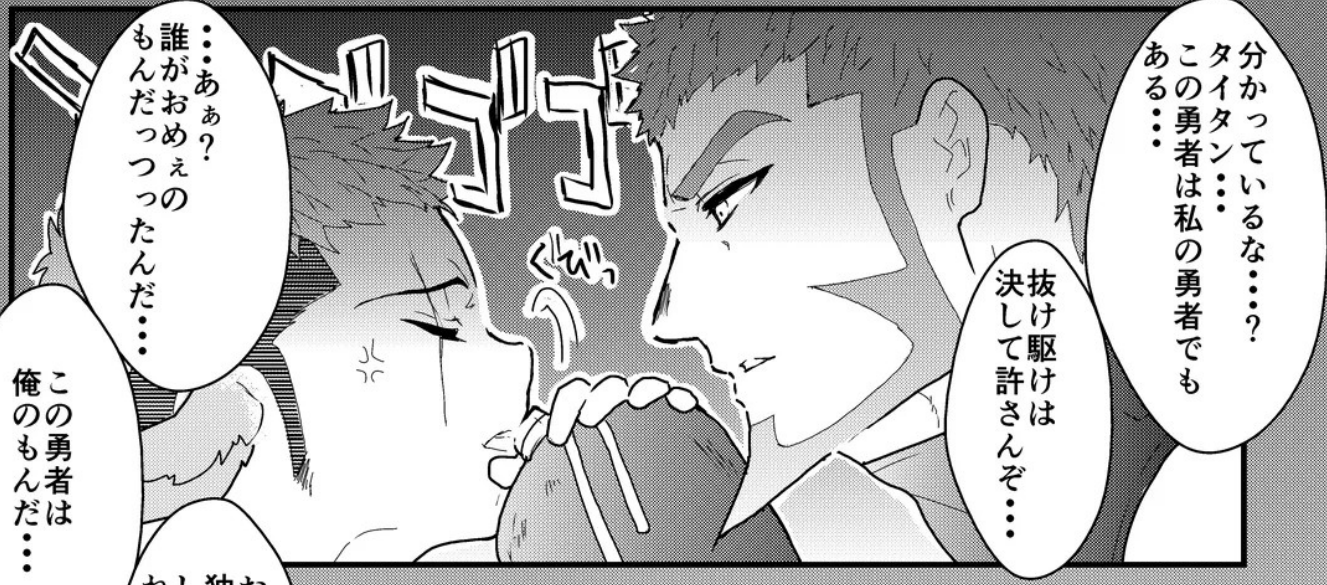


何を話している...?



そ...そうです
リヴァアイアさん!
なんか...
良いお酒ないの...? って
聞かれて...それで...

り...
リヴァアイアさ...ッ
おめえには
関係のねえ
話だ



分かってるな...?
タイタン...
この勇者は私の勇者でも
ある...

抜け駆けは
決して許さんぞ...

...ああ?
誰がおめえの
もんだつつつたんだ...

この勇者は
俺のもんだ...

おめえこそ
独り占め発言
してんじや
ねえぞ...



あ...えっと...

なにににー？
修羅場ですか
これー？



天の声……ッ
お前また……ッ
必要ねえ時だけ
現れやがつて……ッ

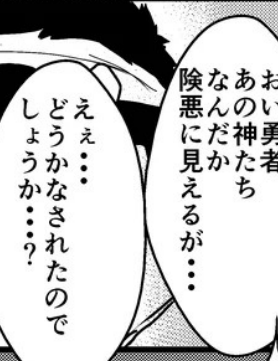
モテる勇者は
違いますねー！
神同士を嫉妬
させるなんて
正に罪な奴



やかましい!!!
四の五の言わずに
どうにかしろ
この状況!!!

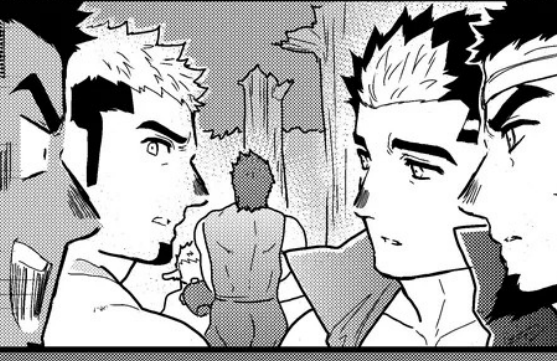
どうせ
私が見てない間に
いやらしい事したんでしょ？
自分が蒔いた種じゃん
知らねえよ

おい勇者
あの神たち
なんだか
険悪に見えるが……



ええ……
どうかなされたので
しょうか……？

ハギユヨグ
何かしたんじゃ
ねえのか？



いや……ッ
俺は……ッ
別に……ッ

と……とにかく
タイタンさんも
味方について
くれたようですし……ッ



先へ
急いで……

約束しろタイタン……
決して
私の知らぬ所で勇者に
手を出さぬと……



おめえこそ約束しろ
俺の勇者に
勝手にイタズラ
すんじゃねえってな……？

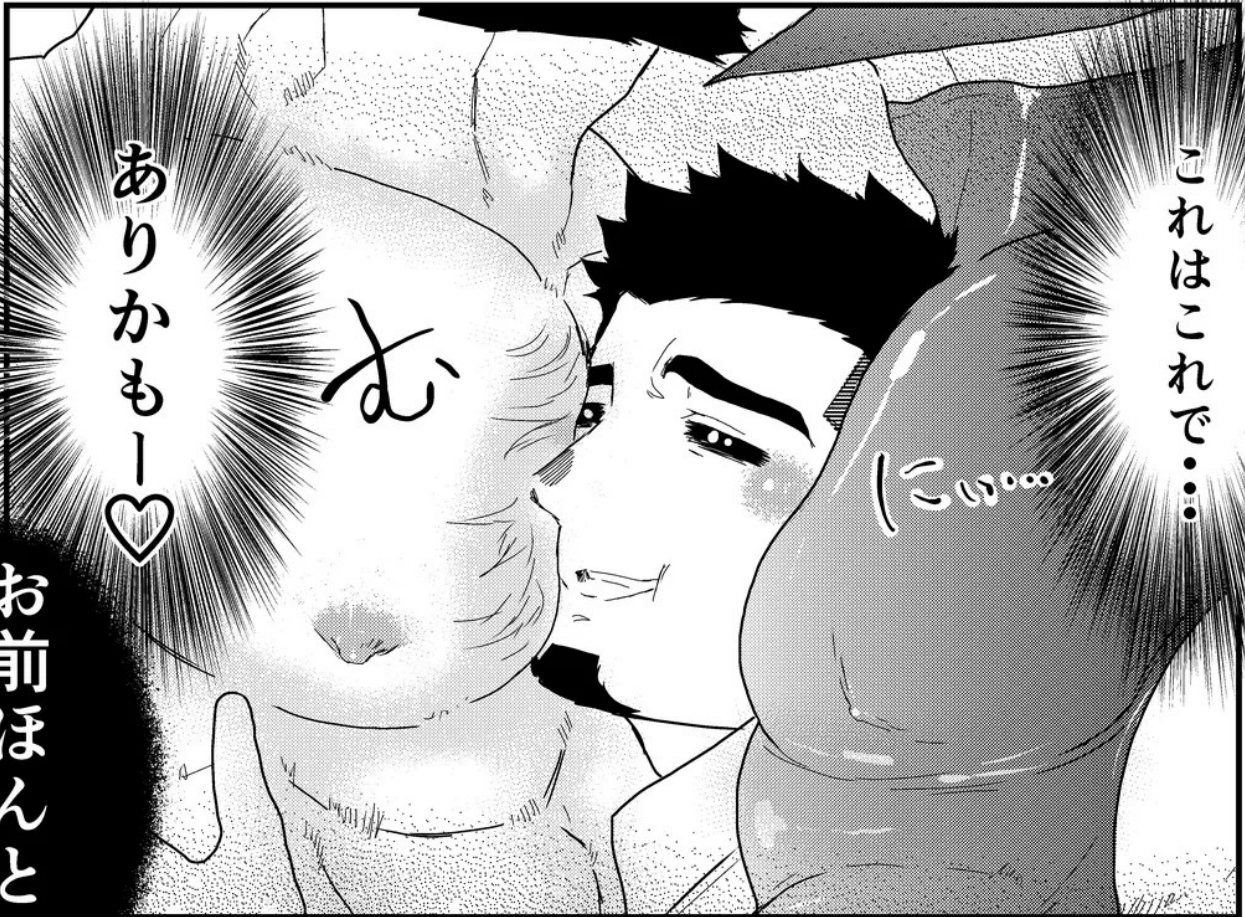




くそ……ッ
面倒な事に
なっちまった……ッ

まさか
俺の取り合いに
なるなんて……ッ

でも……



これはこれで……

ありかもー♡

む

（いい……）

お前ほんと
最低な男だな

……あの……
先へ急いでも
いいでしょうか……

今はそっと
しとこうぜ
ミカエラ

ああ……
聞く耳を
持たない
みたいだしな

喧嘩をやめて
二人をとめてえ♡



もう少しで
お前と俺は
同じになる…
そうならば…

もう少しだ…



あと少しだ…